

「規範感覚」の崩れをめぐって

目次

特集●規範感覚のなさはどこから生じたのか ……………深谷昌志……………2
調査レポート●「規範感覚」の崩れをめぐって ……………深谷昌志……………7
本報告書の要約……………7
第I章 規範感覚としらけ ……………8
1. ブレーキの利かない子どもたち……………8
2. 学級会の雰囲気……………9
第II章 けじめの感覚を持っているか ……………14
1. 善悪のけじめと損得……………14
2. 他人に関心を持つか、無関心か……………19
3. 善悪のけじめと学年……………21
第III章 自己主張の程度 ……………26
1. 自分たちの力に対する評価……………26
2. 学級委員になりたいか……………30
第IV章 学校のきまりに対する評価 ……………37
1. 学校のきまりを守るか……………37
2. 守るきまり・守らないきまり……………41
3. 学校のきまりと学年差……………45
第V章 自己評価と規範感覚 ……………50
1. 未来の見通し……………50
2. 自己像に関連させて……………56
資料1 調査票見本および集計表……………66
資料2 基礎集計表の一部……………84

※おことわり 本文中に使用した写真は、本文・テーマとは一切関係ありません。

特集

規範感覚のなさは どこから生じたのか

放送大学教授 深谷昌志



1. 自分本位を育てる家庭

この頃の子どもたちは、自分をコントロールする力を持っていない。自制力に乏しいのではないか。そうした仮説から規範感覚についての調査を実施することになった。結果は調査レポートで詳しくふれる通りだが、仮に子どもたちの規範感覚にゆがみが生じていたとしても、それは、中学生になって急にそうした現象が表れたのではなく、生まれてから10

年以上たった成長過程で身につけたものであろう。そこで、自制力の乏しさ、あるいは自分本位で積極的に人のためになることをしようとしめない態度がどう育ったのかを、生育史にさかのぼる形でとらえることにした。

規範感覚の形成を小学生時代へ戻ってあとづける、そうすることを通してゆがみのもつ深さを明らかにしたいと思った。

たしかに、子どもたちを見ていると、自分のことだけを考え身勝手だと思ふ場合が少な

くない。しかし、そうした態度が、本当の意味での利己心からくるものかとなると疑問が生じてくる。

というのは、利己心とは自分としてはあれをしたい、あるいはこういうことをしたいなどの自分の気持ち先走って、他人を無視してしまう態度であろうから、強い自己主張に裏うちされるのを原則とする。

しかし、子どもたちの利己心を見ていると、そうした自己主張を持たずに、単なるわがままなのではないかという感じがする。つきつめていうなら、子どもたちの利己心は、幼児のように自分本位にもの考えることの表れと言えなくもない。

もちろん、こうした感慨は利己心のとらえ方によって異なると思うが、いずれにせよ、子どもたちが自分のことだけしか考えようとしないのはたしかであろう。

そこで、そうした自分本位な態度がどうして育ったのか、背景を探ることにしたい。

小学生と母親とを対象として、食卓についての調査を行ったことがある。子どもたちに食卓の風景を答えてもらい、それを母親の子どもの頃と対比させ、世代の移り変わりの中で食事文化のありさまをとらえようとしたのである。

●だれの好みを大事にして献立が決まるか

	一世代前	現代
①父 親	30%	11%
②おとな	5%	6%
③親と子の両方	40%	24%
④子ども	25%	59%

●ご飯をよそう順番

	一世代前	現代
①父 親	65%	24%
②年長順	17%	5%
③決まっていない	14%	57%
④子ども	4%	14%

●父の帰宅が遅れた時、待つ長さ

	一世代前	現代
①1時間以上	18%	9%
②1時間	36%	17%
③30分	27%	29%
④15分	8%	13%
⑤待たない	11%	32%

一世代前と言っても、小学生を持つ母親であるから、本サンプルの平均年齢は39歳で、純粋に戦後生まれである。ということは、子ども時代を過ごしたのは昭和30年代の前半で、東京オリンピックや大阪万博を迎える直前の日本である。したがってそれほど昔のことではない。

しかし前述した数値から明らかなように、この2～30年の間に、父親の好みが大事にされ、父親から順にご飯をよそい、そして、父の帰宅が遅れたら1時間くらい待つというような食卓の風景は失われつつある。それに代わって、子どもの好みが大事にされ、ご飯を子どもからよそい、そして父の帰宅が遅れたら待たずに食べ始める家庭が増加している。

こうした変化は、食卓の主役が父親から子どもへ変わったことを意味しており、父親中心から子ども中心への移り変わりへと要約するのも可能であろう。

かつての家庭では父親が戸主として君臨していた。そうした家制度のなごりを除こうとした方向は正しかったと思う。しかし、その結果として、子どもが家庭の中で主役の座を占めたことに疑問が残る。

2. 「してもらっただけ」の生活

もちろん、子どもが主役になっても悪くはない。問題は、主役としてどんな役割を演じているかであろう。

念のために、家事手伝いの中で、「毎日のようにしている」ことの割合を示すと以下の

通りとなる。

①自分の食器を流しへ運ぶ	51%
②夜ふとんをしく	41%
③食器を並べる	28%
④ゴミ捨てに行く	10%
⑤夕食の手伝いをする	7%
⑥食器をふく	7%
⑦食器を洗う	5%
⑧洗たく物を取りこむ	4%

自分の食器を流しへ運ぶ以外、ほとんど手伝いをしない生活である。そしてこの数値を、食卓の風景に関するデータと重ね合わせて、夕食前後の子どもたちの姿を追ってみよう。

子ども部屋で勉強をしていると——もちろんマンガ雑誌を見ていたり、居間でテレビを見ている子どもも多かろうが——お母さんの「ご飯ですよ」の声が聞こえてくる。テーブルにつくと、自分の好みの献立が並んでいる。いちばんはじめに、ご飯をよそってもらい、父親の帰宅が遅れている場合でも待たずに食事を始める。そして食べ終わったら自分の食器を流しへ持っていき、自分の部屋へ戻ってのんびりするか、テレビでも見るということになる。

親たちからしてもらおう生活であって、自分から何もしていない。義務を課せられずに好みを尊重される主役でもある。

もう一度、食事の風景についてのデータへ戻ろう。母親たちに、自分の母からどんなしつけを受けたかを尋ね、それと子どもに対するしつけとを対比してみた。次の数値は、それぞれの項目について「一昔前」は、親から「とても」「わりと」言われた割合を、「現在」は自分が親になって子どもに「とても」「わりと」言う割合を示しているが、そうした比較を試みると、昔に比べしつけがきびしくなった項目とゆるやかになったものがあるのがわかる。

●昔よりきびしくなった項目

	一昔前	現在
①歯をみがく	8%	32%
②手を洗う	51%	59%
③よくかんで食べる	23%	26%

●昔よりゆるやかになった項目

	一昔前	現在
①みんな揃って食べる	31%	21%
②食事中にトイレに立たない	51%	33%
③「いただきます」を言う	67%	56%

一昔前と比べ、衛生面でのしつけはきびしくなった。しかし、礼儀や作法という面のしつけが甘くなりはじめている。楽しく食事ができればよいというのであろう。

今まで食事を中心として、子どもたちの生活を探ってきた。そして「しなければならない」、あるいは「してあげる」ことなしに「してもらおう」だけの生活を、子どもたちが送っているのがわかってきた。

それと同じ情況は、食事の他にも家庭生活のあらゆる面にみられる。現在、小学校高学年生の7～8割の子が、子ども部屋を持っていると言われる。

子ども部屋の中をのぞいてみよう。子ども部屋にあるものの割合は、以下の通りである。

①勉強机	98%	⑥ラジカセ	34%
②ゴミ箱	94%	⑦テレビ	20%
③本箱	87%	⑧オルガン	17%
④トランプ	82%	⑨カメラ	13%
⑤百科辞典	65%	⑩ステレオ	12%

ものに囲まれた生活である。勉強する気になれば、参考書やドリルはむろんのこと、学習百科もそろっている。疲れたらラジカセで音楽を聞いてもよいし、マンガを読んでもよい。テレビを見て、休息することもできる。

スイッチをひねれば音が聞こえてきたり、映像が映ったりするのであるから、休息するときも自分から何かをするのではなく、しても

らう生活である。

それではそうした子ども部屋を、だれが掃除しているのか。

①いつも親	21%	} 63%
②主として親	42%	
③主として子ども	28%	} 37%
④いつも子ども	9%	

部屋の中が汚れたら、親がきれいにしてくれる。子どもたちは部屋を掃除する義務を負うことなく、部屋を使う権利だけを持っていると言えよう。しかも「自分からする」のではなく、「してもらう」だけの生活を、子どもたちは生まれてこのかた、ずっと送ってきた。もちろん赤ちゃんの場合、してもらうだけの生活があたり前であろう。ということを見ると、子どもが成長するにつれて「してもらう」割合が少しずつ減少して、「いっしょにする」や「してあげる」割合が増加するのが、ノーマルな育ち方なのであろう。

ところが現代の子どもたちの場合、成長したにもかかわらず「してもらう」生活を送っており、「してあげる」ことが少ない。そうなれば、してもらうことがあたり前となり、他人の立場を考えようとしないう子が育ってくる。その結果自分本位なものを見方をする子の増加を招く。

3. 自分から何もしない形の遊び

これまで、家庭の中で子どもを描いてきた。こうした指摘を続けていくと、利己的な子どもを生みだす源は家庭だという結論になりやすい。そうした指摘が的外れでないのはたしかであろうが、そうかといって利己的な子どもを生みだしたすべての責任を家庭に求めるのは極端にすぎよう。

そこで角度をかえて、地域の中で子どもたちの遊びに目を向けてみよう。子どもたちの遊ぶ姿が地域から消えたのは周知の通りで

あろうが、鬼ごっこやかくれんぼ、石けり、メンコ、ビー玉などが消えた遊びの具体例となる。

そして、そうしたかつての遊びは今になって考えてみると、①屋外で、②何人かの友だちと、③体を動かしながら、④これといった道具を持たずに、⑤自発的に遊ぶなどの特性を備えていたのに気づく。

それに対し、現在の遊びを特徴づけるものは何か。テレビやマンガ、プラモデル、ゲームウォッチ、ラジカセと数えあげていくと、①室内で、②ひとりきりで、③体を動かさないで、④メカを対象として、⑤受け身で遊ぶ形である。

こうした変化はつきつめていくと、群れ型から孤立型へ、遊びのスタイルが変化したと要約できよう。

●暗くなるまで遊んだこと

①1度もない		42%
②1～2度ある	30%	} 42%
③なん回かある	12%	
④ときどきある	6%	} 16%
⑤いつもしている	10%	

●友だちと秘密の場所を持つ

①1度もない		44%
②1～2度ある	26%	} 40%
③なん回かある	14%	
④ときどきある	6%	} 16%
⑤いつもしている	10%	

遊びが孤立化したことにより、子どもたちが失ったものは多い。体力が低下した、生きていく力が弱まったなどが考えられるが、本稿の角度から問題をとらえ直すと、かつての遊びと比べ現代の遊びは、自分から何もしないという面が特色である。

すでにふれたように、テレビはスイッチをつけるだけ、マンガはページをめくるだけ、さらに言えばラジカセもボタンを押すだけで、

のんびりとした自分なりの時を過ごすことができる。

そうだとすれば、いるかいなかわからない友だちを求めて外に出かけ、そのうえ気が合わないかもしれない友だちと、けんかをしたりしながら遊ぶまでもないのである。

4. 友だちのためにしたことがない

このように現代の子どもたちは、家庭の中で親たちからしてもらった毎日を過ごしながらか成長してきた。そして遊びについても、自分から何もすることなく、スイッチを押すだけでそれなりに楽しめる形の生活を重ねてきた。

したがって、やや図式化したとらえ方をするならば、してもらっただけの生活で自分からだれかに何かをしてあげることとはもちろんのこと、自分の行動に責任をとることも体験せずに成長してきた。

子どもたちに友だちについての調査を行った折、友だちのために何かをしたことがどれくらいあるかを尋ねてみた。

● 風邪で休んだ友だちの家に、学校であったことを話しに行く

① 1度もない	35%	} 63%
② 1～2度ある	28%	
③ なん回かある	21%	} 37%
④ よくしている	16%	

● 友だちに頼まれたノートなどを回り道をして買って帰る

① 1度もない	39%	} 68%
② 1～2度ある	29%	
③ なん回かある	25%	} 32%
④ よくしている	7%	

● 遅刻しがちな友だちを遅れないように回り道をして迎えに行く

① 1度もない	25%	} 71%
② 1～2度ある	46%	

③ なん回かある	21%	} 29%
④ よくしている	8%	

これらはいずれも日常的にはよくある体験でないから、「よくしている」割合が、それほど多くなくてもやむをえまい。しかし、それにしても「1度もない」子が多いのが目につく。

友だちのために、何かをしたことがないか、あっても1～2度の子が6～7割に達するのである。

このようにみえてくると、現代の子どもたちがしてもらった中で生活しており、してあげることがまったくないということが改めて感じられてくる。

もちろんこうした子どもたちは、決して悪い子ではない。というよりむしろ、言われた通りに、そしてしてくれるままに、行動をとる善良な良い子たちである。しかし残念ながら、自分でものごとを考えた体験に乏しい。そのため、自分で考えねばならないときに、未成熟な行動をとりがちになり、それが規範感覚のなさとして目にうつりがちになる。

したがって、利己心を克服するために何よりも必要なことは、日常の生活の中で人のために何かをする体験を積ませることであろう。皿洗いや食器をしまう、ゴミを捨てに行くなど、子どもなりに役に立つ仕事は多い。もちろんお母さんの肩を叩いてあげる、お父さんの靴をみがく、朝刊をとってくるのよう探し出してみると、子どもの働く機会は予想外に見いださる。

そうした体験を通して、自分も人の役に立てる人間だと思い、そして役に立つことのうれしさを感じる。それが、利己心を克服し、規範感覚を育てるための第一歩であろう。しかし正直なところ、中学生からでは遅すぎる感がしないでもない。

調査レポート

「規範感覚」の崩れをめぐって

放送大学教授 深谷 昌志

本報告書の要約

- ① 学級会ではだれも意見を言わないし、「別にありません」と言う人が多い(P.9図1)。
- ② いつも金持ちでのごっつくれる友だちがいたら、理由はともかくおごってもらうが22%、お金をつかわないように言うが32%(P.16表3)。
- ③ 授業中にしゃべっている友だちがいたら、うるさいなあと言うが28%、なにも言わないが40%(P.17表4)。
- ④ 生徒たちは全体として見ると、生徒なりに善悪のけじめを持っているように思える(P.20表6)。
- ⑤ ただし学年が上がるにつれて、他人に干渉せずに、自分を大事にする傾向が強まる(P.22表7)。
- ⑥ みんなで話し合えばいじめはなくなるかについては、そう思わないが43%で、とても+わりとそう思うの31%を上回っている(P.27表9)。
- ⑦ クラス委員になりたいは24%で、なりたくないが66%。めんどうくさいからいやだという(P.30図5、P.32図6)。
- ⑧ 男子のワイシャツは白のみというきまりは、69%が守ると答え、なくすべきだは16%にすぎない(P.38表14)。
- ⑨ しかし、女子の髪をしぼるゴムは、黒以外の色は使わないについては35%がなくすべきだと答え、3年では43%が反対している(P.39表15)。
- ⑩ 学校のきまりの中でも、生徒たちは守ってもよいきまりと守りたくないきまりとに分けて評価している。そしてそうした評価はおおむね妥当のように思える。(P.46表18)
- ⑪ 勉強が得意、あるいは部活動に熱心に参加しているなど、自分に自信を持つ生徒の規範感覚はしっかりとしている。(P.61表26～P.65表29)

●原則として調査項目から抜粋した語句はゴシック体で示してある。なお、一部の見出し、図表等はゴシック体だが左記に該当しない。

〔調査概要〕

対象・東京都、埼玉県、栃木県、長野県、山形県、徳島県の公立中学校9校
期間・昭和61年2月～3月
方法・学校通しによる質問紙調査

サンプル構成 (人)

性別 学年	男子	女子	計
中1	517	536	1,053
中2	751	686	1,437
中3	169	178	347
計	1,437	1,400	2,837

第I章 規範感覚としらけ



1. ブレーキの利かない子どもたち

「『規範感覚』の崩れをめぐる」と題した本稿のもとになっている調査は、この『モノグラフ・中学生の世界』vol.22で扱った「いじめ」に関する調査の延長線上に位置している。

というのは、いじめを扱っているとき、現象としてのいじめを掘り下げることも大事だが、いじめを引き起こしている背景が気になりになった。とくに、ふつうの感覚の持ち主であつたら、ある程度までのふざけでとどまると思うのに、けじめを越えてしまう子が多い。そうした意味では、中学生の善悪の基準があいまいになっている気がする。

ひとりの子どもをみんなでいじめる。しかも日が経つにつれて、いじめの程度がひどくなるだけでなく、いじめに加わる仲間が増え

る。そうした際、節度やけじめがしっかりしていれば、ほどほどのところでいじめに歯止めがかかるはずなのに、ブレーキが利かない。規範感覚という言葉ではっきりさせたいのは、そうしたブレーキの利き具合である。

もちろんひとくちに規範感覚と言っても、ものごとの善し悪しについてどういう基準を持っているか、あるいは基準を持っている場合でも、基準の守り方がどの程度なのか、などさまざまな側面が考えられる。

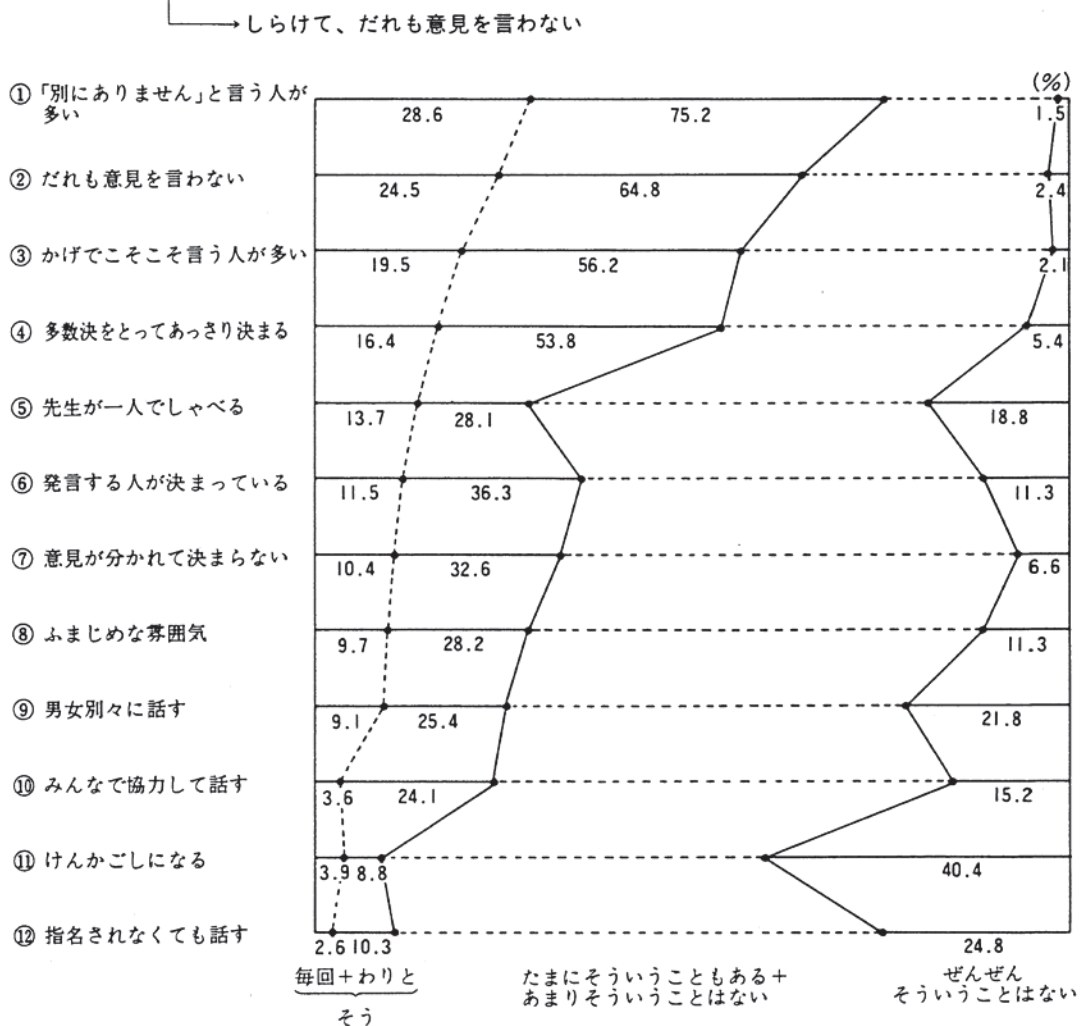
そうした中で、規範の枠組は生徒たちも知っているような気がするが、その枠組を守ろうとする態度が欠けているのではないかと考え、そうした前提で、規範感覚に迫りたいと思った。

2. 学級会の雰囲気

つきつめて言うと、ものごとの善悪について知識としては知っていても、自分のものになっていない。悪の感覚が欠如していると言えよいのであろうが、そのためにおとなの目からすると、とんでもないことを罪悪感なしにしてしまう生徒の姿が見える。

もっとも、生徒たちは善悪の判断を自分の問題として問われる機会が少ないように思える。言われるままに行動していれば、時間が過ぎていく。自分なりの考えなどに固執すると、かえって抵抗感が生じ生きにくくなる。風のおもむくままに漂っているほうが気楽だ

(図1) 学級会の雰囲気



し、かっこうもいい。

そうした雰囲気、図1からもうかがえよう。これは生徒たちに学級会の雰囲気を尋ねたものだが、全体としてだれも意見を言わない(②)、指名されなくても発言することはめったにない(⑩)、「別にありません」と言う

人が多い(①)などが目につく。ひとくちにしろけた感じと言えるような学級会の雰囲気が伝わってくる。

しかも表1によれば、そうしたしらは学年が上がるにつれて顕著になるようで、学級会はだれも意見を言わなくて、しらけている

(表1) 学級会はだれも発言せずにしらけている

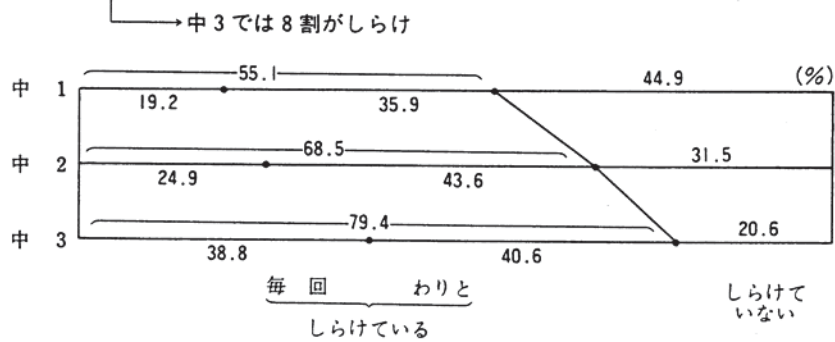
→ 学年が上がるとしらける

属性		尺度	毎回そう	わりとそう	たまにそういうこともある	そういうことはない	
						あまり	ぜんぜん
学年	中 1		19.2	35.9	25.6	14.7	4.6
	中 2		24.9	43.6	23.7	7.0	0.8
	中 3		38.8	40.6	14.8	3.5	2.3
性	男子		25.0	39.2	23.7	9.4	2.7
	女子		23.9	41.7	23.0	9.4	2.0
勉強	(とても得意)		41.1	28.8	12.3	2.7	15.1
	かなり得意		27.7	40.9	21.4	7.5	2.5
	ふつう		22.3	43.3	22.6	10.0	1.8
	やや苦手		19.0	41.8	25.7	11.4	2.1
	とても苦手		34.9	32.5	23.6	6.7	2.3
活動	熱心	運動部	25.9	37.5	23.5	10.3	2.8
		文化部	22.0	47.0	21.5	8.1	1.4
	消極	運動部	19.5	42.5	25.9	9.8	2.3
		文化部	24.0	40.5	24.6	9.8	1.1
	入っていない		30.1	40.5	19.5	7.3	2.6
全体			24.5	40.3	23.4	9.4	2.4

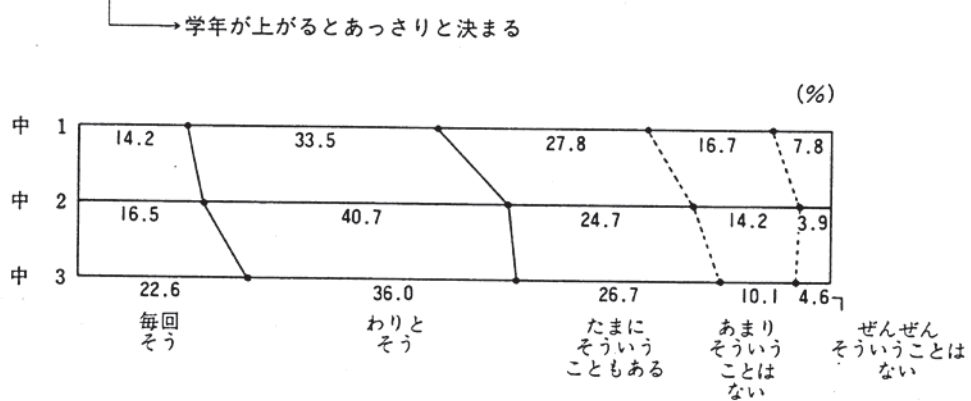
という項目についての反応をグラフ化すると、
 図2のような結果となる。また多数決をとって
 あっさり決まるについても、図3のように
 学年が上がるにつれてそうした傾向が強まる。
 したがって学級会を手がかりとすると、生

徒たちは学級に象徴される自分の属している
 集団のあり方に無関心である。しかもそう
 した傾向が、学年が上がるにつれて著しくな
 るといえよう。

(図2) 学級会はしらけている×学年



(図3) 多数決をとってあっさりきまる



現実的な「規範感覚」とともに おとなに対する反発が著しい

放送大学助教授 岡崎友典

生徒の自己評価の回答結果から、中学生の全体像をイメージ的に描いてみよう。勉強が苦手が約5割、友だちが少ないは1割、毎日が楽しくないが約2割、そして、学校に行きたくないと思ったことがあるが5割。

このデータから、多くの生徒は「いやな、あるいは得意でない勉強があるので、学校を休みたいと思うこともあるが、友だちがおり、楽しいこともあるので、とにかく休まずに登校している」、といった中学生像を考えてみたのだが、どうだろうか。「楽しいこと」については、今回「部活動」についてきいているので、これを手がかりに考えると、入っていない者は2割弱で、運動部に7割弱、文化部に1割強が入部しており、しかもその大半の者が熱心に活動していると回答している。つまり「“ブカツ”が楽しい現代中学生」といった平均的な像が浮かんでくるといえよう。

そこでこの平均像と規範感覚について、若干のコメントをしてみた。

調査票① こんなときどうするか(規範感覚)——友だちに対しては、3) いじめられているのを助けたり、8) ツッパリグループに入るのを止めたり、10) カンニングしているのを注意したり、30) スーパーでの万引きを止めさせるなど、悪いことに対して積極的に行動するタイプの者とそうしない者とが、およそ半々となっている。

このような姿勢は、積極的か消極的かの違いはあるにしても、友だち関係が彼らにとって、重要な意味を持つことを示しているのではなかろうか。というのは、同じ人間関係でも教師との関係では、4) えこひいきのはげしい先生に対し、7割以上の者が抗議するあるいは文句を言うとは回答しており、なんとも思わない者はわずか3%にすぎない。

当然、予想された結果ではあるが、おとなの世界と子どもの世界とでは、規範感覚に違いがあり、その構成メンバーつまり仲間の場合と、そうでないおとなの場合とでは異なった反応を示すのである。この教師と生徒の二つの世界をうまく調整していくことが重要な課題となる。これは学校という一つの社会での規範やルールの重要性を示している。

調査票⑦ 学校のきまりについて——学校のきまり、いわゆる「校則」について45項目にわたって、必要か否かを尋ねている。総体として彼らの規範感覚は、それなりのバランスをもつというか、ノーマルであるといえよう。

1～9の髪の毛については、8. パーマをかけたり、9. 髪をそめる校則に対し8割以上の者が守るべきだと思うと答えている。一方、1. 男子の丸刈りや、4. 女子の三つ編みなど、自然なファッションなどについては3分の2以上の者がこのような

きまりはなくすべきだ、あるいは守らなくてもよいとしている。

青年期の初期の段階にあって、自己の表現に個性を持たせようとするのは、むしろ自然な姿であると言えるのではないか。装身具や人工的な装飾については、彼らなりに自己規制しているようにみえるのだが、どうだろうか。

服装やカバンなどについても、標準的なものを校則で決めていることに、とくに強い反発を示しているわけではない。22. 放課後や休みのときも外出は標準服で、といった規則には強い抵抗を示している。つまり、校外生活については自由でありたい、といった願望を読みとることができる。すでに述べたように、学校といった特定社会の規範については従うが、学校外では校則は通用しなくなっている。一般社会と学校社会との規範におけるギャップをどのように考えるかは、教育実践上の大きな課題である。

たとえば、36. 君が代や、37. 校門の国旗、に対する姿勢のとり方について、つまり一般社会の規範とされてきた約束ごとに対し、その大多数が否定的な回答をしている。また43. 映画館やさかり場へは必ず保護者で行く、といったきまりにも強い抵抗を示す。

以上の解釈はあくまでも仮説的なものであるが、さらにつけ加えるならば、彼らは極めて現実適応的な思考様式と行動パターンを持つといえるのではないか。この傾向について、将来の見通し、といった観点からみてみよう。

調査票⑩ 将来の自己像について—7. 有名になれる、8. お金持ちになれる、9. 尊敬されるようになる、といった社会的な達成動機は著しく低い。8割の者が無理だと答えている。にもかかわらずというより、むしろそれとは反対にというべきであろうか、高校や大学への進学、就職や結婚については、半数以上の者が希望通りになると考えており、とくに、5. しあわせな家庭生活を送れるとの見通しを持つ者は約8割にもなる。さらに高年齢化社会においても、10. 老後、しあわせに暮らせると7割の者が予想しているのである。

このような将来の見通しについては、幼稚であるとか、甘いと見ることもできるが、彼らのおかれている社会的状況を考えるなら、青年期の若者たちに個人的にであれ社会的にであれ、彼らの達成動機を高揚させるだけの条件が学校社会、一般社会のいずれにも欠けているためと見ることもできよう。

いずれにしても現代の中学生がどちらかといえば、現実に適応的な規範感覚を持ちながら、一般社会のおとなたちや学校の教師に反発している。それは学校社会に対する一般社会の過干渉にも原因があるのではなかろうか。さらに個別具体的に示すならば、親の子どもに対する、教師の生徒に対する、養育や指導のあり方、言い換えるなら新しい次の世代を担う子どもたちの「教育」に関して、社会的コンセンサスが形成しにくいから、おとなたちそれぞれがばらばらの形で、子どもに状況適応的に接しざるをえないからではないだろうか。このような傾向は、青年期の若者の達成動機を低下させるだけでなく、さらに彼らを衝動的な反抗へと、追い立てていくに違いない。

以上、調査結果の一部からではあるが、感じられたいくつかの点を記してみた。

第II章 けじめの感覚を持っているか



1. 善悪のけじめと損得

前章にも、自分のこと以外は関心を示そうとしない生徒たちの態度が表れているが、もう少し細かい行動のレベルでの反応を調べてみよう。

まず、善悪のけじめと自分にとっての損得との葛藤場面を想像してみよう。つまり、そうしたことをするのが良くないのはわかっている。しかし、そうすると得になりそうだから、悪い部分は目をつぶろうというような態度が、生徒たちの間に広がっているかどうかである。

具体例として、禁止されている自転車で通学してくる友だちに、君も自転車で来ないかとさそわれたという場面を考えてみよう。

表2の反応から明らかのように、さそいにならない生徒が全体の62%を占め、ほぼ3分の2を制している。したがって便利に、あるいは楽になるからといって規則を破る気持ちを持つ生徒は、考えているより少ないことがわかる。それと同時に、友だちに注意する生徒は勉強の得意な者、あるいは部活動に熱心に参加している者に多い。

そのような傾向は、表3のお金をたくさん持っていておごってくれる友だちがいます。そんな友だちにあなたは……という質問にも表れている。おごってもらう生徒も2割を超えるが、中には理由を聞いたうえで注意する生徒も1割に迫っている。そして、注意する

タイプの生徒は表中のプロフィールの示す通りに、友だちが多く、熱心に部活動に参加していて、勉強の得意な者に著しい。
したがって、自分に誇りをもっている生徒

ははじめのある生活を送っていて、だらしくおごってもらうことは少ないように思える。それと同時に残念ながら、学年が上がるにつれておごってもらう生徒が増加するのが気が

(表2) 禁止されている自転車で友だちが登校し、乗らないかとさそわれたら

(%)

属性		尺度	友だちに注意する	さそいのらない	友だちのさそいなら乗る	すぐに乗ってくる
学年	中 1		14.7	66.7	15.4	3.2
	中 2		9.9	62.1	23.5	4.5
	中 3		6.6	49.1	33.1	11.2
性	男 子		11.1	61.7	20.8	6.4
	女 子		11.4	62.7	22.6	3.3
勉強	(とても得意)		24.7	28.7	21.9	24.7
	かなり得意		16.4	66.0	11.3	6.3
	ふ つ う		11.4	66.1	19.5	3.0
	やや苦手		10.7	62.9	23.0	3.4
	とても苦手		8.5	55.5	27.5	8.5
友だち	とても多い		13.0	54.5	21.5	11.0
	わりと多い		13.3	62.1	21.5	3.1
	ふ つ う		9.9	63.4	22.5	4.2
	わりと少ない		7.2	68.6	22.1	2.1
	(とても少ない)		13.9	64.3	11.9	9.9
部活動	熱心	運動部	14.1	62.6	18.7	4.6
		文化部	17.2	67.0	14.8	1.0
	消極	運動部	8.6	63.0	23.8	4.6
		文化部	12.0	65.0	19.7	3.3
	入っていない		6.9	57.3	27.8	8.0
全 体			11.3	62.1	21.7	4.9

かりとなる。

表2～3でとりあげた質問は、善悪と損得とを組み合わせた内容であった。得になりそうならちょっとした悪に目をつぶるかどうか、

を問題にしている。そして、生徒たちはそれなりに自制力を持っていること、同時に残念ながら、その自制力が学年が上がるにつれて薄れる傾向が明らかとなった。

(表3) お金を持っていておごってくれる友だち

→中3はおごってもら

(%)

属性		尺度	理由を聞いて注意する	つかわないように言う	理由を聞いておごってもら	よろこんでおごってもら
学年	中 1		11.2	38.8	30.4	19.6
	中 2		9.0	28.6	39.6	22.8
	中 3		10.7	26.0	37.0	26.3
性	男子		8.9	26.4	35.6	29.1
	女子		11.0	37.9	36.3	14.8
勉強	(とても得意)		20.3	21.6	16.2	41.9
	かなり得意		12.6	36.0	25.6	25.8
	ふつう		10.6	35.0	36.8	17.6
	やや苦手		9.6	34.8	38.1	17.5
	とても苦手		6.7	21.1	36.3	35.9
友だち	とても多い		13.3	27.5	28.0	31.2
	わりと多い		9.8	34.8	36.2	19.2
	ふつう		9.2	32.1	38.3	20.4
	わりと少ない		8.2	32.3	34.9	24.6
	(とても少ない)		13.1	26.3	32.3	28.3
部活動	熱心	運動部	11.2	33.5	34.6	20.7
		文化部	15.3	40.2	32.1	12.4
	消極	運動部	8.5	28.1	38.3	25.1
		文化部	8.3	38.9	35.0	17.8
	入っていない		7.5	29.9	37.0	25.6
全体			10.0	32.1	35.8	22.1

それでは、損得を離れて善悪の判断を問われたらどうするのか。表4は授業中にしゃべっている友だちがいます。そのとき、あなたは……という状況での反応を求めているが、

なにも注意しない生徒が40%で、「うるさいなあ」と言う生徒の28%を12%ほど上回っている。

もっとも仲のよい友だちがツツパリのグループに入りそうという項目については(表5)、

(表4) 授業中にしゃべっている友だち

→ 中1の生徒は積極的に注意

(%)

属性		尺度	「静かに」と注意する	「うるさいなあ」と言う	なにも注意しない	仲間に入ってしまう
学年	中1		15.3	32.1	31.9	20.7
	中2		8.3	26.0	44.4	21.3
	中3		8.1	21.4	43.3	27.2
性	男子		10.4	31.3	35.6	22.7
	女子		11.5	23.9	43.7	20.9
勉強	(とても得意)		24.7	21.9	11.0	42.4
	かなり得意		15.7	32.1	34.6	17.6
	ふつう		12.3	29.7	41.7	16.3
	やや苦手		10.2	27.3	40.1	22.4
	とても苦手		5.5	23.0	38.9	32.6
友だち	とても多い		15.3	29.5	19.5	35.7
	わりと多い		12.1	33.6	34.2	20.1
	ふつう		9.5	24.3	45.7	20.5
	わりと少ない		7.2	22.2	57.2	13.4
	(とても少ない)		10.9	24.8	49.4	14.9
活動	熱心	運動部	13.3	31.6	32.8	22.3
		文化部	17.4	27.5	39.2	15.9
	消極	運動部	7.7	27.5	43.7	21.1
		文化部	13.7	22.4	45.3	18.6
	入っていない		7.1	21.4	46.2	25.3
全体			10.9	27.6	39.7	21.8

ほうっておく者は11%で、少なくとも話を聞いてみるくらいはするつもりだという生徒が43%に達する。したがって、生徒たちは

一般に言われているほど自分本位の考え方をしていないように思える。

(表5) 仲のよい友だちがツツパリのグループに入りそう

← 勉強の得意な子は注意をする

(%)

属性		尺度	入るのをやめさせる	「入るなよ」と話す	話を聞いてみる	ほうっておく
学年	中	1	21.3	29.7	38.7	10.3
	中	2	18.2	26.3	45.2	10.3
	中	3	12.4	21.4	49.7	16.5
性	男	子	14.1	30.2	38.8	16.9
	女	子	23.3	23.6	48.0	5.1
勉強	(とても得意)		24.7	21.9	11.0	42.4
	かなり得意		15.7	32.1	34.6	17.6
	ふつう		12.3	29.7	41.7	16.3
	やや苦手		10.2	27.3	40.1	22.4
	とても苦手		5.5	23.0	38.9	32.6
友だち	とても多い		22.4	23.9	39.3	14.4
	わりと多い		21.0	31.9	39.2	7.9
	ふつう		16.0	25.7	47.2	11.1
	わりと少ない		18.1	24.9	44.0	13.0
	(とても少ない)		18.0	21.0	40.0	21.0
部活動	熱心	運動部	23.9	30.4	36.8	8.9
		文化部	25.0	29.8	40.4	4.8
	消極	運動部	14.9	25.2	47.5	12.4
		文化部	17.6	27.5	47.2	7.7
入っていない		15.0	21.9	46.7	16.4	
全体			18.6	26.9	43.4	11.1

2. 他人に関心を持つか、無関心か

そこで、表2～5を含めて30の項目を提示して、それぞれの場面にどう反応するのかを尋ねてみた。詳しくは巻末の調査票見本を参照してほしい。項目により反応のとり方を変えてあるが、全体としてみると、相手にコミット（関与）するか放置（あるいは無関心）するのかを問題にしている。

そして30の項目を、関与する度合いの少ないものから順に並べたのが、表6である。最大値に着目して生徒たちの心の内をまとめると、以下の通りとなろう。

●友だちが万引きしているのを見たら、ほかの人に気づかれないような形で注意する。

[48%]

●禁止されている自転車で登校してきた友だちにさそわれても、乗るのをことわる（ただし、乗っているのを注意はしない）。

[62%]

●先生のえこひいきがひどかったら、ぶつぶつ文句を言う（ただし、抗議はしない）。

[47%]

●友だちの悪口を言っていたらだまって聞いている（ただし、悪口を言うなど注意することはない）。

[53%]

●車椅子で困っている人がいたら、様子を見て助ける（ただし、すぐに手伝うことはない）。

[55%]

こうした結果をどう解釈したらよいかは微妙なものを含んでいる。しかし、生徒たちが自己中心的で他人を顧みないということは少ない。かといって正義感にあふれているとも言えない。無関心でも善悪をきちんと守るでもなく、ほどほどにけじめを持っている、たとえば生徒たちの心に迫れるのであろうか。

(表6) 規範感覚について

→模範的とは言えないが、無責任ではない

(%)

1	10) カンニングをしている友だち	注意する	5.8	42.0	26.8	25.4	ほうっておく
2	25) ポケットにお菓子	すてる	6.4	58.0	13.0	22.6	食べてしまう
3	28) ビニ本がまわってきた	読むと言う	7.5	19.2	43.4	29.9	見てからまわす
4	14) 急に服装が派手に	注意する	7.6	42.7	44.3	5.4	つきあわない
5	3) いじめっ子がいじめられている	助けに行く	7.8	38.1	31.3	22.8	ほうっておく
6	30) 万引きを見た	店の人にあやまる	9.4	47.7	10.1	32.8	見ないふり
7	15) おごってくれる友だち	注意する	10.0	32.1	35.8	22.1	おごってもらう
8	12) 学校を休んでいる友だち	友だちの家に行ってみる	10.8	10.7	38.1	40.4	何もしない
9	5) まわりの人としゃべっている子	注意する	10.9	27.6	39.7	21.8	仲間に入る
10	1) 禁止された自転車で	友だちに注意	11.3	62.1	21.7	4.9	自分も乗ってみる
11	21) ウソを親が信じた	ごめんなさい	13.3	51.2	12.8	22.7	だまっている
12	13) 友だちの悪口を言う子	注意する	13.7	16.0	53.3	17.0	いっしょに悪口を言う
13	17) テストなのにぬむい	頑張る	14.3	30.5	36.6	18.6	ぬてしまう
14	7) 希望する高校は無理と言われた	頑張る	14.4	63.6	15.9	6.1	あきらめる
15	9) 勉強を怠けている友だち	いっしょに勉強	16.0	31.1	27.6	25.3	ほうっておく
16	18) あとかたづけ	あとかたづけ	16.5	36.8	40.3	6.4	返事をしない
17	16) 友だちが自分を嫌う	他の子と遊ぶ	18.4	10.9	55.7	15.0	一人でいじける
18	8) 仲間がソツパリに入りそう	やめさせる	18.6	26.9	43.4	11.1	ほうっておく
19	2) 友だちがものをかくされた	教えてやる	20.4	40.7	34.7	4.2	教えてあげない
20	27) 車椅子の人が困っている	手伝う	25.5	55.2	11.7	7.6	ほうっておく
21	4) 先生のえこひいきがひどい	先生に抗議	28.8	46.5	21.5	3.2	なんとも思わない
22	20) 頼まれて引き受けた	やり通す	29.0	32.0	12.0	27.0	ほうっておく
23	19) 親に口答えして外へ	反省する	29.8	15.8	48.9	5.5	そのまま
24	26) 忘れものに気づく	とりに帰る	33.7	11.6	46.2	8.5	なしですます
25	11) クラスの仲のよいカップル	うらやましい	34.1	13.2	4.0	48.7	自分に関係ない
26	29) タバコを渡された	ことわる	35.6	52.5	8.5	3.4	すってしまう
27	23) 友だちが泊めると言ってきた	親に連絡	45.8	31.5	17.3	5.4	泊める
28	24) 大金の財布をひろう	交番に	46.4	25.9	8.8	18.9	もらってしまう
29	22) 友だちの家で遅くなった	家に帰る	50.8	8.7	37.9	2.6	泊まる
30	6) 授業中工具をこわした	あやまる	66.0	17.4	12.2	4.4	知らんぷり

○は最大値

3. 善悪のけじめと学年

しかし、これまでの結果の中で学年が上がるにつれて、生徒たちの無関心さが目についた。そこで表6の30項目について、学年別の集計を試みた。詳しい数値は表7の通りだが、矢印のような形で全体の傾向をまとめておこう。

関与する割合 が減る	①	↘	13	} 17項目
	②	↘	2	
	③	↘	2	
無関心さが 増える	①	↗	12	} 17項目
	②	↗	5	

したがって、学年が上がるにつれてカンニングをしている友だちを見てもほうっておく、万引きをしている友だちを見て見ぬふりをする、先生がえこひいきをしてもなにも言わない、など無関心層が増加している。

そうした傾向を、生徒たちが成長した証と見なすか、それともスポイルされていく過程とみるのかは、微妙で判断がむずかしいとこ

ろである。なぜなら、自分によほど不利益になったり、危険が迫ったりするのでなければ無関心をよそおうことが、おとならしきなのであろう。したがって、他人に対して不必要なまでに干渉することなく、自分のまわりを大事にする傾向が中学生に目立つといっても、それは中学生がおとな化したのであって、ことさら非難するまでもないことかもしれない。そうしたとき、生徒たちが自分を律することができるなら、近代的な自我が形成されたといえるのかもしれない。

なお、規範感覚と学業成績との関係は表8の通りで、成績が下位になるにつれて他人に関与する割合が減り、自己中心的になる比率が高まる。そうした意味では、生徒たちはストレートに自己中心的になるのではなく、若者らしく他人との関わりを持つ面を残しているといえよう。

(表7) 規範感覚×学年

→学年が上がるにつれてクールに

(%)

			注意するなどの働きかけ				ほうっておく			
			中1	中2	中3	傾向	中1	中2	中3	傾向
1	10) カンニングをしている友だち	注意する	8.6	4.1	4.1	↘	18.5	28.1	35.8	↗
2	25) ポケットにお菓子	すてる	9.0	4.2	7.8	↘	18.2	23.2	33.6	↗
3	28) ビニ本がまわってきた	読むなど言う	9.6	6.4	5.8	↘	22.7	34.1	34.4	↗
4	14) 急に服装が派手に	注意する	10.2	5.9	6.3	↘	6.8	4.3	5.4	↘
5	3) いじめっ子がいじめられている	助けに行く	8.0	7.7	8.1	→	18.0	24.6	29.9	↗
6	30) 万引きを見た	店の人にあやまる	11.5	8.6	6.1	↘	27.3	34.2	43.5	↗
7	15) おごってくれる友だち	注意する	11.2	9.0	10.7	↘	19.6	22.8	26.3	↗
8	12) 学校を休んでいる友だち	友だちの家に行ってみる	12.6	8.7	14.4	↘	36.4	44.2	36.0	↘
9	5) まわりの人としゃべっている子	注意する	15.3	8.3	8.1	↘	20.7	21.3	27.2	↗
10	1) 禁止された自転車で	友だちに注意	14.7	9.9	6.6	↘	3.2	4.5	11.2	↗
11	21) ウソを親が信じた	ごめんなさい	16.0	12.4	8.6	↘	20.6	22.7	29.4	↗
12	13) 友だちの悪口を言う子	注意する	16.0	12.0	14.1	↘	17.7	16.6	16.7	↘
13	17) テストなのにねむい	頑張る	17.1	13.9	6.9	↘	16.7	16.5	33.1	↗
14	7) 希望する高校は無理と言われた	頑張る	15.3	13.3	16.4	↘	5.7	5.2	11.0	↘
15	9) 勉強を怠けている友だち	いっしょに勉強	15.5	15.0	21.7	↗	25.7	25.1	24.6	→
16	18) あとかたづけ	あとかたづけ	19.5	14.4	16.5	↘	6.4	5.2	11.6	↘
17	16) 友だちが自分を嫌う	他の子と遊ぶ	21.6	16.6	16.1	↘	14.3	15.6	14.4	→
18	8) 仲間がツッパリに入りそう	やめさせる	21.3	18.2	12.4	↘	10.3	10.3	16.5	↗
19	2) 友だちがものをかくされた	教えてやる	23.2	19.8	14.2	↘	4.2	3.9	5.5	↗
20	27) 車椅子の人が困っている	手伝う	26.4	23.1	33.1	↘	7.2	7.9	7.8	→
21	4) 先生のえこひいきがひどい	先生に抗議	32.3	26.3	28.2	↘	2.4	3.5	4.3	↗
22	20) 頼まれて引き受けた	やり通す	30.0	28.8	27.1	↘	25.5	28.0	26.8	↘
23	19) 親に口答えして外へ	反省する	33.6	28.6	22.8	↘	5.4	5.2	7.2	↗
24	26) 忘れものに気づく	とりに帰る	38.7	30.1	33.1	↘	7.1	8.2	13.5	↗
25	11) クラスの仲のよいカップル	うらやましい	32.5	36.6	28.6	↘	47.7	48.7	52.0	↘
26	29) タバコを渡された	ことわる	36.7	36.9	26.5	↘	3.3	2.5	6.9	↘
27	23) 友だちが泊めると言ってきた	親に連絡	52.7	43.6	34.3	↘	5.3	4.6	8.6	↘
28	24) 大金の財布をひろう	交番に	48.5	44.1	48.6	↘	16.1	18.9	28.0	↗
29	22) 友だちの家で遅くなった	家に帰る	54.8	49.5	43.5	↘	2.5	2.1	5.5	↗
30	6) 授業中工具をこわした	あやまる	66.8	66.7	59.5	↘	4.1	3.1	9.9	↘

(表8) 規範感覚×学業成績

→ 勉強が苦手になると規範感覚の崩れが目につく

			勉強				(%)
			得意	ふつう	やや苦手	苦手	傾向
1	10) カンニングをしている友だち	注意する	6.3	6.1	4.8	5.2	→
2	25) ポケットにお菓子	すてる	5.0	5.9	5.8	7.1	↗
3	28) ビニ本がまわってきた	読むなど言う	8.9	7.5	6.7	5.5	↘
4	14) 急に服装が派手に	注意する	7.5	8.3	7.5	4.4	↘
5	3) いじめっ子がいじめられている	助けに行く	3.8	6.7	7.2	10.0	↗
6	30) 万引きを見た	店の人にあやまる	6.9	9.7	9.4	7.8	↘
7	15) おごってくれる友だち	注意する	12.8	10.8	9.8	6.7	↘
8	12) 学校を休んでいる友だち	友だちの家に行ってみる	8.2	9.9	10.7	12.0	↗
9	5) まわりの人としゃべっている子	注意する	15.7	12.3	10.2	5.5	↘
10	1) 禁止された自転車で	友だちに注意	16.4	11.4	10.7	8.3	↘
11	21) ウソを親が信じた	ごめんなさい	18.9	15.8	10.4	9.3	↘
12	13) 友だちの悪口を言う子	注意する	19.7	14.4	12.4	10.6	↘
13	17) テストなのにねむい	頑張る	21.4	17.2	12.1	6.6	↘
14	7) 希望する高校は無理と言われた	頑張る	23.9	15.1	10.8	12.2	↘
15	9) 勉強を怠けている友だち	いっしょに勉強	13.3	16.9	15.5	15.2	↘
16	18) あとかたづけ	あとかたづけ	18.4	16.9	16.1	13.1	↘
17	16) 友だちが自分を嫌う	他の子と遊ぶ	15.1	17.9	20.5	17.7	↘
18	8) 仲間がツッパリに入りそう	やめさせる	21.5	19.3	18.5	14.9	↘
19	2) 友だちがものをかくされた	教えてやる	23.9	20.6	20.2	18.4	↘
20	27) 車椅子の人が困っている	手伝う	21.4	26.6	25.5	23.5	↘
21	4) 先生のえこひいきがひどい	先生に抗議	29.6	28.7	27.2	30.0	↘
22	20) 頼まれて引き受けた	やり通す	34.0	31.7	28.6	22.6	↘
23	19) 親に口答えて外へ	反省する	32.9	33.0	29.9	20.7	↘
24	26) 忘れものに気づく	とりに帰る	34.4	38.2	31.7	24.7	↘
25	11) クラスの仲のよいカップル	うらやましい	30.8	37.7	33.9	29.8	↘
26	29) タバコを渡された	ことわる	34.8	38.4	35.3	29.8	↘
27	23) 友だちが泊めてと言ってきた	親に連絡	47.2	49.3	46.7	37.6	↘
28	24) 大金の財布をひろう	交番に	53.5	51.0	44.7	37.8	↘
29	22) 友だちの家で遅くなった	家に帰る	54.7	53.3	50.7	43.1	↘
30	6) 授業中工具をこわした	あやまる	66.7	70.9	64.9	57.4	↘

データのかげに本音がちらり

東京都小平市立小平第四中学校教諭 鈴木秀男

単純集計の結果は意外なほど常識的な線が出ているようだ。驚くような数値は見あたらず、はっきりした特徴が見つけにくい。

だが、数値をながめながら毎日接している生徒の生活ぶりや重ね合わせてみると、なんとなく食い違いが見られ、妙な感じがする。このデータからは優等生的なものを感じ、少々できすぎのようにも思え、生徒たちは本当にそうするかと首をかしげたいところもある。

それでも何箇所かで本音や実態をちゃんとのぞかせている。たとえば調査票①「こんなときどうするか(規範感覚)——26」で忘れものに気づいても半数に近い者が、とりに帰らないで、友だちにかりると答え、「ちゃっかり型」とでも言おうか、最近の生徒の傾向をよく示しているように思える。またこの背景に忘れものの多いことや、かりてすませることに暗黙の了解をしている教師側の姿勢がうかがえる。

友だちがからむ質問についての反応は面白いものがある。友だちというものを相当意識していることがわかる。あるときは友だちをととても大事にし、ときによってはできるだけ関わりを持たないような態度にでる。自分の立場が不利にならない方向の行動を上手に選んでいる。自己中心的な考え方や行動様式が感じられる。

学級会や生徒会関係の数値は最近の中学校の様子をよく表しているように思う。積極性に欠け、余計なことには一切手をださない風潮がはっきり感じられる。年々活気がなくなっていくのを見なければならぬのは残念なことである。

きまりに関しては、学校でも常に話題になり議論がなされない日がないほどである。このデータは平素の不満はどこへ消えてしまったのかと思うくらいに不思議だ。生徒たちは反発している割に冷静な判断をしているのだと思わせるような反応をしている。

さて、この調査では全般的に男女差や学年差が少ないと予想するが、実際にはどのような数値が出、何を物語るのだろうか。

しらけの広がり不安を感じる

東京都東久留米市立西中学校教諭 飯川由美子

今回の調査の中で、もっとも興味深かった項目は、調査票②「学級会の雰囲気について」であった。集団の中での生徒の様子がよくわかるのではないか、と思われた。またクラスという社会が、どのように活動し、どのような場であるのかも知りたかった。

集計データによると、現在の中学生は社会のルールも学校のきまりも理解し、将来についてもそう悲観的ではないようだ。自分に対してもまあまあという評価をしてい

る。しかし、集団の中では適当に過ごそうとしている生徒が多い。とくに、集団生活の中でもっとも大切な話し合いに参加しない。

考えていても発言しない、反対であっても堂々と言えない。ふざけて発言する生徒は、参加しているという意味では、まだいいほうだと思う。何も考えていない生徒、おしゃべりをしていて話の内容さえわからない生徒も多い。それは学力とか、ルールを守るとかということにはあまり関係ないようである。

皆で何かをしよう、何かをしようとしている者に協力しよう、ではなく早く終わらせよう、だれかにやってもらおう的な発想である。

おとなの敷いてくれたレールに乗り、自分さえ安全で幸福であればいい、そんな気持ち学級会に反映しているのではないだろうか。

この調査によって、私のクラスだけがしらけているのではないことがわかりほっとした反面、彼らが社会人になったとき、自分の幸福だけを他人に求めるのではないかと心配にもなった。友だちが殴られていてもかなりやられるまで連絡に来ない、ということもあった。

今、生徒たちに何が必要なのか、おとなたちに何が必要なのか、改めて考えさせられた。

最小限のルール作りを

東京学芸大学大学院生 李淑娟

この調査結果から見ると、現在の日本の中学生は豊かな生活に満足していて、将来に対してもふつうの暮らし方はでき、日本の社会は今よりよくなっていくだろうという考えを持っていることがわかる。そして未来に対して似たような願望を持っており、大きな望みや独特な考え方は持っていないようである。ものごとを解決する方法として消極的な意見の持ち主が多く、あまり目立ちたくないというような群衆心理、集団志向が強いような印象を受けた。また規範や道徳意識が弱くなり、個人主義と事なかれ主義で、善悪を真剣に考えていない者が増えているのも、目につく傾向であった。

そうであるから、学校として規則を強めるのであろうが、友人の話によると、ある私立中学校の学校規則はそれほどきびしくはないが、校内で異装や生徒問題などはほとんどないという。要するに、圧制される感じがなければ、わざと学校と対立する中学生はいない。もちろん学校側は生徒を管理するのに便利であるから、いろいろな規則を作ったわけではなかろうが、中学生は第二反抗期のまっただ中で、理性と感情とが交差し、一番扱いにくい時期でもある。そうした心の動きをふまえて将来、社会へ出たときに、社会のルールを守ることのできる人間にしよう、という考え方にたって、学校における規則は作らねばならない。

しかし、その規則を作るとき、「人に迷惑をかけない最低限度の規則」「学生それぞれの個性をまげることなく発展させる規則」という視点を忘れてはならないと思う。

第III章 自己主張の程度



1. 自分たちの力に対する評価

いずれにせよ、中学生たちは1年から3年へなるにつれて、他人との関わりをたち自分中心になる傾向を強めている。そこで問題となるのは、そうしたとき中学生たちが自分の力をどう評価しているのか、であろう。というのは、自分をしっかりと持っていれば、たとえ他人の関心が薄くとも、それなりの生き方ができると考えられるからである。

表9は、自分たちの力を発揮したらどれくらいのことのできるかを尋ねたものだが、それぞれの項目の数値が示すように、力を信じているとも、自信を失っているとも言いがた

い。つまり、力を合わせれば無力ではないが、かといって有効でもない。ある程度、効果を示せる程度だという。

表10にいろいろ話し合っても、時間のむだ、表11にみんなでじっくり話し合えば、いじめはなくなるという考え方に対してどう思うかの属性別を示した。

表11を、図4の形で図化してみた。みんなで話してもいじめはなくなるという生徒が全体で4割を超えるのが気になり、しかもそうした傾向は、学年が上がるにつれて著しくなる。

学年が上がるにつれて、みんなの力を信じる気持ちが薄れるのであろうか。それでも自分についての規範感覚がしっかりしているな

らば、それもひとつの成長のスタイルと考えられる。

(表9) 自分たちの力に対する評価

→ アイディアを出せば文化祭は楽しくできる

(%)

項目	そ う 思 う			そう思わない	
	とても	わりと	少しは	あまり	ぜんぜん
アイディアを出せば文化祭を楽しくできる	37.7	35.0	20.2	3.9	3.2
	72.7			7.1	
学校のきまりは自分たちが反対しても変わらない	18.6	22.0	25.1	23.9	10.4
	40.6			34.3	
少数意見にも耳を傾けるべきだ	16.9	27.8	34.4	15.0	5.9
	44.7			20.9	
いろいろ話し合っても時間のむだ	11.7	23.7	32.9	25.2	6.5
	35.4			31.7	
みんなで話し合えばはじめはなくなる	11.4	19.6	26.4	27.7	14.9
	31.0			42.6	
代表は先生が決めてくれたほうがよい	8.0	11.7	23.6	36.8	19.9
	19.7			56.7	
話し合いをするとひとりひとりの考え方がわかりおもしろい	5.5	14.0	28.9	36.4	15.2
	19.5			51.6	

(表10) いろいろ話し合っても時間のむだ

(%)

属 性		尺 度	そ う 思 う			そう思わない	
			とても	わりと	少しは	あまり	ぜんぜん
学 年	中	1	13.4	24.0	28.5	26.4	7.7
	中	2	10.0	24.4	35.9	24.8	4.9
	中	3	13.6	19.9	34.2	23.1	9.2
性	男	子	14.4	24.2	29.7	24.9	6.8
	女	子	8.9	23.2	36.3	25.5	6.1
勉 強	(とても得意)		27.0	13.5	23.0	17.6	18.9
	かなり得意		10.7	20.7	28.4	32.7	7.5
	ふ つ う		9.1	21.5	34.2	28.6	6.6
	やや苦手		9.4	29.5	33.3	23.9	3.9
	とても苦手		19.3	25.4	29.0	18.2	8.1
友 だ ち	とても多い		20.6	22.9	25.4	21.1	10.0
	わりと多い		8.2	23.5	34.0	27.9	6.4
	ふ つ う		10.5	23.5	35.6	25.4	5.0
	わりと少ない		8.7	26.7	33.4	25.6	5.6
	(とても少ない)		26.7	21.8	20.8	15.8	14.9

(表11) みんなで話し合えばいじめはなくなるか

→ 中1の中にそう思っている者が多い

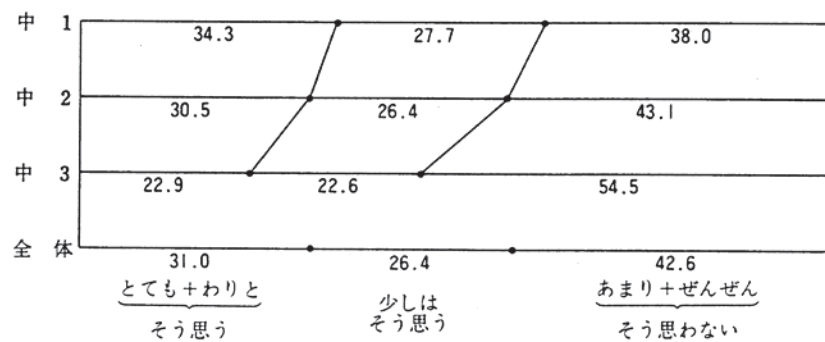
(%)

属性		尺度	そう思う			そう思わない	
			とても	わりと	少しは	あまり	ぜんぜん
学年	中	1	13.5	20.8	27.7	23.6	14.4
	中	2	11.1	19.4	26.4	30.0	13.1
	中	3	6.1	16.8	22.6	31.0	23.5
性	男子		11.9	20.0	25.0	26.9	16.2
	女子		10.8	19.3	27.8	28.6	13.5
勉強	(とても得意)		12.3	17.8	21.9	17.8	30.2
	かなり得意		11.3	23.3	20.8	26.4	18.2
	ふつう		12.1	21.2	28.3	27.4	11.0
	やや苦手		10.6	21.1	27.2	30.8	10.3
	とても苦手		10.7	13.2	22.9	25.6	27.6
友だち	とても多い		17.1	20.9	20.2	20.9	20.9
	わりと多い		13.9	21.9	25.6	28.5	10.1
	ふつう		8.5	18.4	29.4	29.4	14.3
	わりと少ない		6.7	20.2	25.4	29.6	18.1
	(とても少ない)		12.9	11.9	21.8	21.8	31.6

(図4) みんなで話し合えばいじめはなくなるか

→ 中3は効果があると思えない

(%)



2. 学級委員になりたいか

図5は学級委員になりたいと思うかどうかを尋ねたものだが、委員などのリーダーシップの持ち主にあこがれている生徒は24%と4分の1程度にすぎず、3分の2は、なりたくないという。

学級委員に	なりたい	ととも 2%	} 24%
		まあ 22%	
	どちらでも	10%	
	なりたくない	推せんされたら	頑張る 23%
最低しか 20%			
やらない 23%			

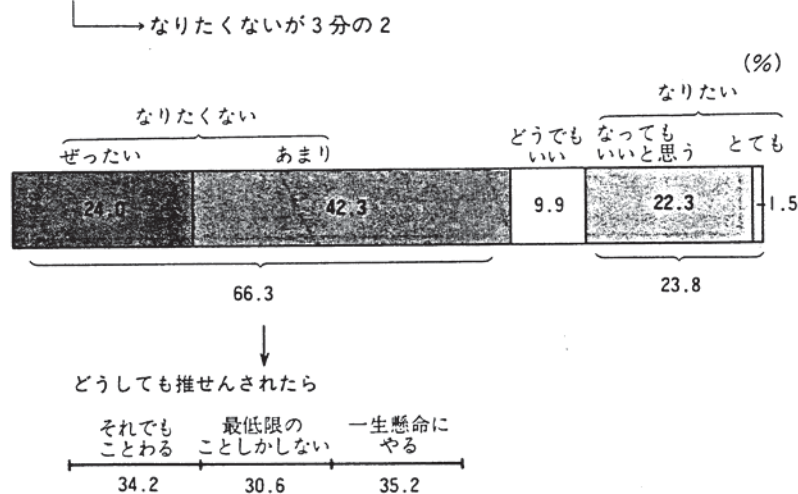
しかも、学級委員になりたくない生徒が、学年が上がるにつれて増加しているのは、表12から明らかであろう。

	なってもいい	なりたい	
中1	24%	+ 2%	= 26%
			∨
中2	23%	+ 1%	= 24%
			∨
中3	16%	+ 2%	= 18%

それでは、どうして学級委員になりたくないのか。生徒たちによれば、忙しそうで、めんどくさいからという(図6)。もちろん数は少ないながら、学級委員はみんなの役に立てるし、やりがいがあるからなってもよいと思っている生徒も見られる(図7)。しかし、残念ながらそうした生徒が少数にとどまっているのは、すでにふれた通りである。

こう見てくると、生徒たちがリーダーシップに重きを置いていないように見えるが、図8によると、生徒会の役員をやっているのはみんなを引っばっていく力があり、成績もよく、人気もあって、ツッパっていない子だという。そうした意味では、心の内ではリーダーに対する信頼感を持っているようにも見える。ただし、表13によれば学年が上がるにつれて、生徒会の役員に対する評価が下降していく。しかし、そうした学年の持つ意味については、改めてのちに考察することにした。

(図5) 学級委員になりたいか



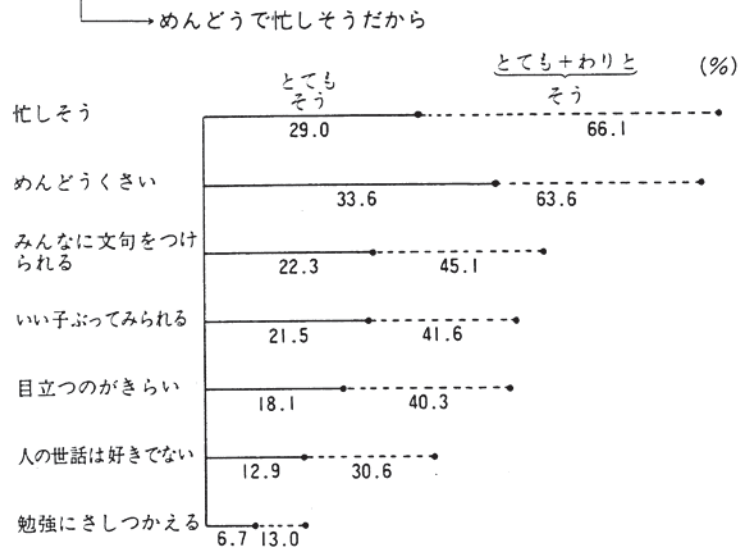
(表12) 学級委員になりたいか

→成績上位層はなってもいい

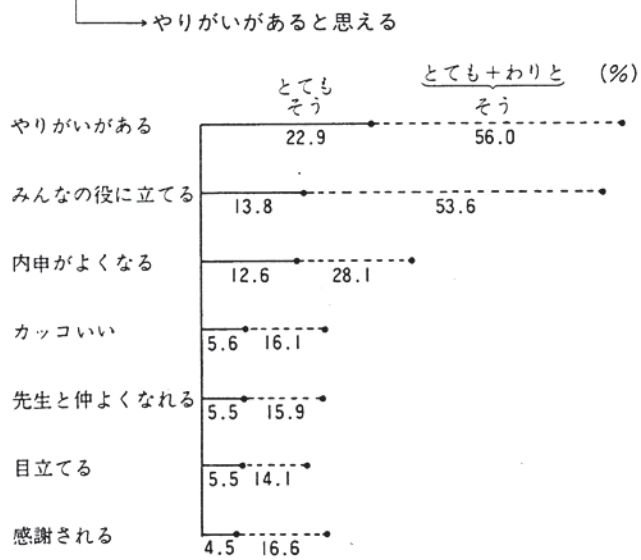
(%)

属 性		尺 度	なりたくない		どうでも いい	なっても いいと思う	とても なりたい
			ぜったい	あまり			
学 年	中	1	23.8	41.5	8.7	24.1	1.9
	中	2	23.6	42.6	10.0	22.6	1.2
	中	3	26.1	43.6	12.7	16.0	1.6
性	男	子	25.8	40.0	10.5	21.9	1.8
	女	子	22.2	44.6	9.3	22.6	1.3
勉 強	(とても得意)		42.3	11.9	13.6	27.1	5.1
	かなり得意		13.1	39.5	8.0	37.2	2.2
	ふ つ う		16.7	45.8	9.3	26.6	1.6
	やや苦手		21.5	48.9	9.1	19.4	1.1
	とても苦手		46.2	28.2	12.7	11.6	1.3
友 だ ち	とても多い		26.9	30.5	11.2	28.3	3.1
	わりと多い		17.3	44.3	9.6	27.2	1.6
	ふ つ う		24.8	46.2	9.4	18.6	1.0
	わりと少ない		32.5	43.2	7.1	16.6	0.6
	(とても少ない)		39.7	20.5	19.3	16.9	3.6
部 活 動	熱 心	運動部	17.7	44.4	9.4	26.1	2.4
		文化部	21.5	38.8	11.8	26.3	1.6
	消 極	運動部	26.2	43.1	9.8	20.0	0.9
		文化部	23.2	37.8	9.1	28.7	1.2
	入っていない		33.5	40.1	9.9	15.8	0.7

(図6) 学級委員になりたくない理由

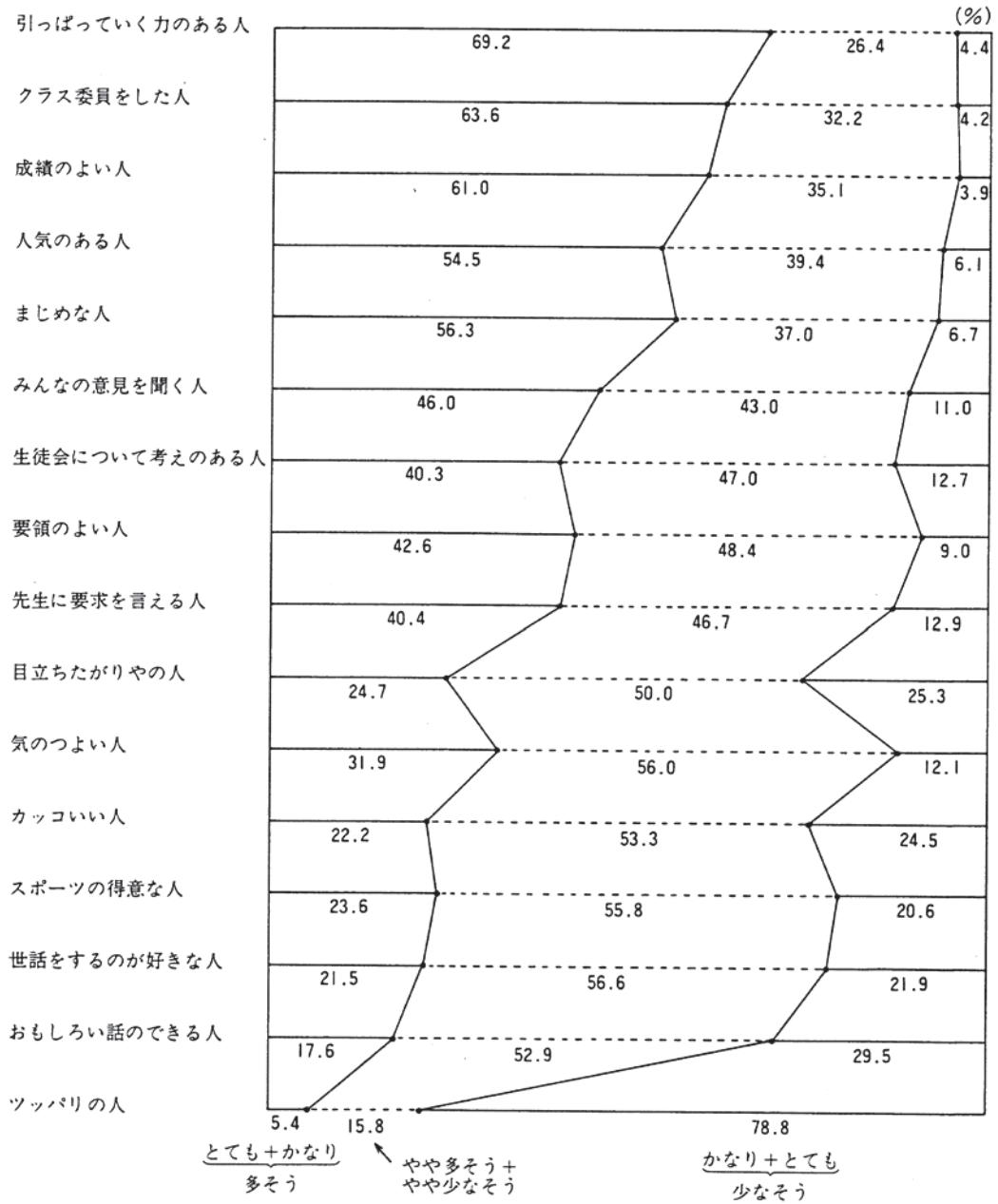


(図7) 学級委員になりたい理由



(図8) 生徒会の役員はどんなタイプ

→ 引っぱっていく力のある人でツッパっていない子



(表13) 生徒会の役員は引っぱっていく力のある人

→ 学年が上がると不信が

(%)

属 性		尺 度	多 そ う			少 な そ う				
			と とも	か な り	や や	や や	か な り	と とも		
学 年	中	1	43.4	28.2	18.1	6.9	1.5	1.9		
	中	2	37.7	34.7	18.8	5.6	1.0	2.2		
	中	3	24.1	25.8	26.7	11.0	5.2	7.2		
性	男	子	32.8	29.4	25.6	7.1	2.2	2.9		
	女	子	29.3	30.6	30.9	6.7	0.9	1.6		
勉 強	得	意	34.7	31.4	22.0	6.3	2.5	3.1		
	ふ	つ	う	27.4	30.2	32.9	6.5	1.6	1.4	
	や	や	苦	手	30.2	33.4	27.3	7.0	1.2	0.9
	と	と	も	苦	手	39.5	25.4	21.4	7.8	1.3
部 活 動	熱 心	運 動 部	39.9	29.8	19.6	6.0	1.8	2.9		
		文 化 部	48.6	27.4	17.8	4.3	0.0	1.9		
	消 極	運 動 部	35.7	33.8	19.3	7.5	1.5	2.2		
		文 化 部	35.8	35.2	20.3	4.9	1.6	2.2		
		入 っ て い な い	35.6	28.6	20.4	8.8	2.7	3.9		
地 域	都	市	22.0	29.1	34.9	8.8	2.2	3.0		
	地 方	都 市	40.7	32.3	20.7	4.0	1.4	0.9		
	山	村	28.5	28.2	30.3	8.6	1.2	3.2		
全		体	38.3	30.9	19.7	6.7	1.7	2.7		

「中学生らしさ」についての疑問と反省

東京都新宿区立牛込第二中学校教諭 伊藤 澄生

4年ぶりに、1年生の学級担任になった。期待と希望に胸をふくらませてきた新生を前にして、その新鮮さ、素直さに気持ちが引き締る思いがした。

そんな中で、生徒手帳を見ながら、中学校で生活していく上でのきまりについて、生徒に説明した。生徒手帳に記載されている校内生活のきまりを改めて読み直すと、「中学生らしい服装」「中学生らしい髪型」……等、「中学生らしい……」という表現が比較的多いことに気づいた。この中学生らしいという言葉の持つ意味について考えてみると、世間一般が思っている中学生らしさ、教師の考え、生徒の考え、親の考えにそれぞれ違いが生じてきているのではないかと。とくに生徒と教師の間には相当のギャップが生じているのではないかと、と常々考えていた。

今回の調査結果を見て一番強く感じたことは、生徒は調査票⑦学校のきまりについての結果で、彼らなりの受け止め方をし、私が今までに考えていたよりも常識的で、規範感覚は失われていないのではないかとということである。

たとえば頭髪について、調査項目8. パーマをかけてはいけない、9. 髪をそめてはいけない、といったきまりを守るべきだという生徒が、全体の8割以上を占めている。少し気になることは、頭髪についてのきまりを約2割の生徒が守らなくてもよいと思うとしていることである。しかし実際には、このきまりを守っていない生徒は、1割にも満たない数であることを考えれば、納得のいく数値かもしれない。しかし、ヘアドライヤーの使用についてのきまりの項目を見ると、パーマ・染髪はダメでも髪型を気にし、自分なりのかっこうをつけたい生徒が半数以上にものはばるの、現代中学生の気質をのぞかせる一端かもしれない。

しかし、なんといっても驚かされたのは、20. 体操服は学校で指定されたもの以外に使わないというきまりを、守るべきだと思うと回答している生徒が8割にも及んでいることである。トレーニングウェアは、ブランド品等多種多様である。かっこうをつけようと思えば、いくらでもつけることができる。それでも守ろうとするのは、授業の中で使うものと、私服として使うものをはっきり区別している、としか考えられない。彼らなりの見識の表れと考えられる。

生徒会活動の活性を求めて

東京都足立区立西新井中学校教諭 森 永徳一

学校現場の教師の間で、生徒の自主的活動が活発でないによく聞かれる。調査票④クラス委員についてから考えると、その実態の一部がうかがえる。とくに④の1)の

● 調査結果をみて

調査項目の結果から見ると、大半の生徒が学級委員や風紀委員（生活委員）になりたくないと考えている。その結果は、多くの学校で1. 忙しそうだからとか、2. めんどくさいからと答える生徒が多いのが実情である。私の生徒会活動の指導の体験から考えると、この回答が実態を的確に示していると考えられる。

生徒会活動が活発でない理由の一つは、調査票②生徒会の雰囲気についての項目2、3の回答が示すように、生徒会活動の基本としての学級会活動の形骸化が進展していることにあると考えられる。また一方では、学級担任の学級指導の不十分さ等も大きな要因と考えられる。生徒自身に「みんなのため」とか「人のため」ということに対する積極性が欠けているのが顕著に目立つケースも多くみられる。人のために「何か役立つ」ことをするというのを考える生徒も、多少存在していることも否定できない。子どもは本来自分の好きなこと、興味・関心のあることを喜んでするものである。教師はこの事実を忘れては、指導の深化は図れない。

もう一つの生徒会活動を活発化させていない阻害要因を考えてみると学校現場の行事の多いことにもあると考える。生徒自身が企画・運営し、実施される行事ならば自主・自立の芽も育ってくるが、教師指導型の行事が大半を占めているのが実情である。多くの学校では学年委員会や行事実行委員会を設置してはいるが、実態は教師がリーダーシップをとるのが中心で、「生徒による、生徒のための」活動は少ない。しかし、日々の活動に欠かすことのできない委員会（生活・美化・給食・学習等）は活発な学校が多い。私の学校では「1人1役制」が定着し、1人の生徒がなにかの委員・係の仕事をしているが、進んで立候補して活動の中心として活動する生徒は少ない。

終わりにあたって、生徒会活動を活発化するための対策を考えてみると、第一は学級会活動の「しらけ」ムードの克服にあると考える。第二は学級討議の中での「別に……」という生徒が少なくなるように指導することにあると考えている。前述の二つのことは、生徒の自主性や積極性を育成するポイントとも考えている。もう一つ活動の活発化促進のためには、生徒ひとりひとりが相手の話を「よく聴く」ということにあると考えている。活動の基本は「よく聴く」ことにあると確信している。

学校の行事への積極的な参加を

東京学芸大学大学院生 呉芳蘭

全体的に言うとき常識的な回答が得られているが、みんなだけでなく自分自身で考えて、という傾向が目につく。

各質問項目のほうっておく、自分に関係がないという意味の回答に多少のパーセントが見られたのは、自分が思うことを正直に発表できる現代社会の傾向によるものと思われる。

学級会におけるあり方も、一応の形式は整っているが、生徒たちの参加は消極的で、活力が乏しい。また、運動会や学校行事についても、積極性が望まれるし、生徒会の委員としての抱負や自覚にも一層の努力を要望したいと思った。

第IV章 学校のきまりに対する評価



1. 学校のきまりを守るか

これまでふれてきたように、生徒たちの規範感覚は予想していたよりしっかりしている印象を受けたが、そうはいうものの学年が上がるにつれて自己中心的になるなど、気になる傾向も見受けられた。

そうしたはじめがもっとも問題となるのは、校則の守り方であろう。中学校の場合、生徒たちが精神的に不安定な年齢で非行などに近づきやすいと考えられるので、きびしい校則を作り、それを守らせる形で精神的な崩れを防ごうとする学校が多い。

しかし、生徒たちは多感な年齢で、服装な

どについての自己主張も強いので、校則の守り方をめぐってとかく問題が生じやすい。

表14は、男子のワイシャツは白のみという規定についての反応だが、約7割の生徒が守るべきだと答えている。そして、こんなきまりはなくすべきだと思う生徒は16%にすぎない。したがってワイシャツは白について、生徒の合意は得られているように思われるが、3年の場合、なくすべきだと考える生徒が3割を超えていることが注目される。

男子のワイシャツについては生徒たちのおおむねの合意が得られているが、表15の女子

の髪をしぼるゴムは、黒以外の色は使わないについては、積極的になくすべきだの35%を含めて守らなくてもよいと思う者が64%に達する。そうした意味でこの規定は、生徒にと

って意味を認めにくい、反発をさそう規定なのであろう。

なお、学校に残るときは、許可証が必要についての反応は表16の通りで、ワイシャツと

(表14) 男子のワイシャツは白のみ

→ 中1は守ろうとしている

(%)

属 性		尺 度	当然必要だ	いちおう守るべき	守らなくてもよい	なくすべきだ
学 年	中	1	41.0 ∨	32.3	13.8	12.9 ∧
	中	2	35.3 ∨	36.7	14.4	13.6 ∧
	中	3	19.9	27.5	21.7	30.9
性	男	子	33.3	33.7	14.6	18.4
	女	子	37.8	34.2	15.6	12.4
勉 強	(とても得意)		29.5	18.9	12.2	39.4
	かなり得意		40.3	35.2	10.7	13.8
	ふ つ う		41.4 ∨	33.4	14.5	10.7
	やや苦手		32.8 ∨	37.6	16.4	13.2
	とても苦手		25.8	31.9	15.6	26.7
友 だ ち	とても多い		36.6	25.4	11.4	26.6
	わりと多い		37.9	34.2	15.7	12.2
	ふ つ う		33.6	35.8	16.1	14.5
	わりと少ない		35.2	41.5	10.9	12.4
(とても少ない)		38.0	29.0	18.0	15.0	
部 活 動	熱 心	運動部	39.2	33.9	12.0	14.9
		文化部	42.6	31.1	15.8	10.5
	消 極	運動部	34.1	36.6	15.3	14.0
		文化部	35.7	40.7	13.2	10.4
	入っていない		27.0	30.2	21.1	21.7
全 体			35.5	33.9	15.1	15.5

黒のヘアゴム（表14、表15）との中間に位置している。賛否が相半ばしている感じだが、3年になると批判層が7割に迫っている。こうした三つの規定に対する反応を図化し

てみると、図9のように黒のヘアゴムは反対、ワイシャツの白は守る、居残りの許可証は一応守ろうという感じになる。

(表15) 女子は髪は黒のゴムでしばる

→ 中3は規則に反発

(%)

属性		尺度	当然必要だ	いちおう守るべき	守らなくてもよい	なくすべきだ
学年	中 1		14.4	27.5	30.0	28.1
	中 2		7.1	25.7	29.2	38.0
	中 3		9.0	22.1	26.2	42.7
性	男子		11.5	25.1	33.1	30.3
	女子		8.6	26.8	25.1	39.5
勉強	(とても得意)		19.4	13.9	22.2	44.5
	かなり得意		11.4	31.6	26.6	30.4
	ふつう		9.8	30.9	29.3	30.0
	やや苦手		9.8	24.7	32.4	33.1
	とても苦手		9.4	16.9	24.2	49.5
友達	とても多い		11.0	19.7	23.4	45.9
	わりと多い		9.0	27.9	31.2	31.9
	ふつう		9.9	26.4	29.4	34.3
	わりと少ない		8.2	29.7	30.3	31.8
	(とても少ない)		21.0	21.0	26.0	32.0
部活動	熱心	運動部	11.8	24.5	29.8	33.9
		文化部	9.7	32.8	25.6	31.9
	消極	運動部	8.4	25.2	31.0	35.4
		文化部	10.5	27.6	23.2	38.7
	入っていない		9.0	27.7	27.7	35.6
全体			10.1	25.9	29.1	34.9

(表16) 残るときには許可証が必要

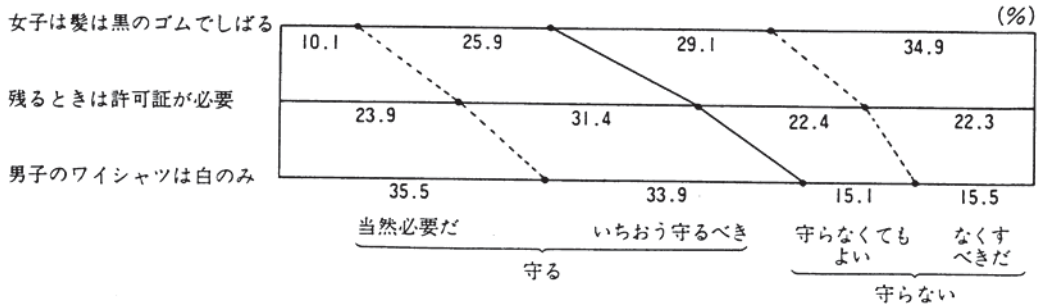
→意味がありそうとないとが半々

(%)

属性		尺度	当然必要だ	いちおう 守るべき	守らなく てもよい	なくすべきだ
学 年	中	1	30.0	29.6	20.8	19.6
	中	2	22.9	34.9	22.3	19.9
	中	3	9.2	22.2	28.0	40.6
性	男	子	23.3	29.9	23.4	23.4
	女	子	24.5	32.9	21.4	21.2
勉 強	(とても得意)		23.3	17.8	12.3	46.6
	やや得意		27.8	29.7	20.3	22.2
	ふ つ う		26.5	32.6	22.9	18.0
	やや苦手		22.8	34.5	24.4	18.3
	とても苦手		18.1	26.7	20.2	35.0
友 だ ち	とても多い		26.1	24.1	17.4	32.4
	わりと多い		25.6	30.5	23.7	20.2
	ふ つ う		21.5	34.4	22.9	21.2
	わりと少ない		28.2	32.3	22.6	16.9
	(とても少ない)		21.4	28.6	25.5	24.5
部 活 動	熱心	運動部	27.8	30.4	21.0	20.8
		文化部	30.8	31.2	24.5	13.5
	消極	運動部	19.7	34.4	23.8	22.1
		文化部	26.4	33.0	18.1	22.5
入っていない		17.8	28.8	24.6	28.8	
全 体			23.9	31.4	22.4	22.3

(図9) 学校のきまりについての反応

きまりによって反応に幅がみられる



2. 守るきまり・守らないきまり

そこで学校の中でのきまりを45項目選び出して、それに対する評価を求めてみた。結果は表17の通りで、ここでは当然必要なきまりだと思う者の少ないものから順に、45項目を提示してある。

●なくしたいきまりの(守る気のない)4位

- 1) 絵入りのしたじきなどの禁止
- 2) 校門の国旗に一礼
- 3) 雨がさは黒か紺
- 4) オーバー、マフラーは禁止

●中学生として当然のきまりだと思う4位

- 1) 髪をそめてはいけない
- 2) パーマをかけてはいけない
- 3) 体操服は指定されたものを着る
- 4) 職員室は一礼して入る

パーマをかけたり、髪をそめたりするのは中学生らしくないから、それを禁止するきま

りがあるのは当然で守るべきだ。しかし、雨がさの色やしたじきの柄まで規定するのは細かすぎるし、そうしたことは自分たちの自主性にまかせてほしいという反応である。この限りでは納得できるように思えるから、生徒たちのこうした気持ちを含んで学校のきまりを作り直しては、という気持ちがしてくる。

そうした中で表14～16でもふれた通り、学年が上がるにつれて生徒たちが学校のきまりを批判的にとらえるようになる傾向が目立った。改めて図化してみると、図10のようなプロフィールが得られる。3年の生徒は、多くのきまりをなくすべきだと思っているらしい。

細かな規則をうるさく思い反発を示すのは生徒たちが成長した証で、程度にもよろうが歓迎すべき傾向なのかもしれない。

(表17) 学校のきまりについて

→きまりを守ろうとする姿勢が目につく

(%)

項目	尺 度	当 然 必要だ	いちおう 守るべき	(小計) 守 る	守らなく てもよい	なくす べきだ	(小計) 守らない
①	絵入りのしたじき禁止	2.2	7.6	9.8	23.6	66.6	90.2
②	校門の国旗に一礼	4.1	10.4	14.5	27.2	58.3	85.5
③	雨がさは黒か紺	4.7	16.0	20.7	26.2	53.1	79.3
④	オーバー、マフラーは禁止	6.2	14.2	20.4	21.2	58.4	79.6
⑤	廊下は右側通行	6.3	20.9	27.2	38.1	34.7	72.8
⑥	男子の丸刈り	7.3	30.8	38.1	18.3	43.6	61.9
⑦	他のクラスに入らない	7.5	15.7	23.2	24.7	52.1	76.8
⑧	職員室には用のある者	8.2	20.9	29.1	36.8	34.1	70.9
⑨	掃除中にしゃべらない	8.4	23.1	31.5	34.1	34.4	68.5
⑩	君が代は姿勢を正しく	8.7	18.9	27.6	26.0	46.4	72.4
⑪	放課後の外出は標準服	8.8	14.9	23.7	21.9	54.4	76.3
⑫	映画は親と	9.8	15.0	24.8	28.6	46.6	75.2
⑬	女子は髪は黒のゴムでしばる	10.1	25.9	36.0	29.1	34.9	64.0
⑭	レインコートなどは黒か紺	10.6	27.5	38.1	27.5	34.4	61.9
⑮	女子のピンどめは黒	10.9	25.8	36.7	29.5	33.8	63.3
⑯	男子の髪は耳にふれない	11.6	37.9	49.5	24.5	26.0	50.5
⑰	男子のくつしたは黒	13.1	29.1	42.2	26.3	31.5	57.8
⑱	女子は三つ編み	14.3	29.1	43.4	25.4	31.2	56.6
⑲	校内放送は直立して聞く	14.5	31.0	45.5	29.7	24.8	54.5
⑳	つめえりのホックをとめる	15.2	31.1	46.3	32.0	21.7	53.7
㉑	男子のベルトは黒	15.7	34.0	49.7	24.2	26.1	50.3
㉒	まっすぐ掃りより道をするな	19.4	31.5	50.9	28.5	20.6	49.1
㉓	指定されたカバン以外は使わない	19.9	29.7	49.6	23.6	26.8	50.4

なくすべきだ

つまらないと思うが守るつもりだ

(%)

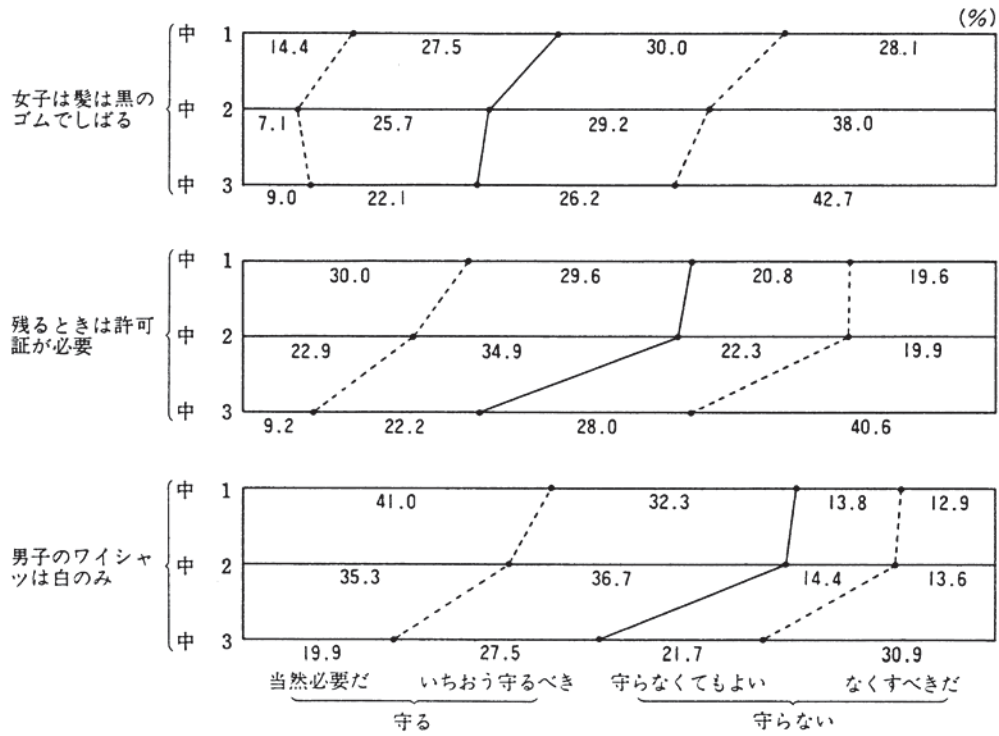
項 目	尺 度						(小計) 守らない
		当 然 必要だ	いちおう 守るべき	(小計) 守 る	守らなく てもよい	なくす べきだ	
㉔	ドライヤーでウェーブをつけない	20.1	26.3	46.4	26.1	(27.5)	53.6
㉕	カバンをつぶすな	20.5	26.8	47.3	25.5	(27.2)	52.7
㉖	男子のズボンのすそ幅	20.6	(35.2)	55.8	23.5	20.7	44.2
㉗	通学カバンにワッペンをはらない	22.7	(29.8)	52.5	26.0	21.5	47.5
㉘	髪に飾りをつけない	22.8	(31.9)	54.7	22.0	23.3	45.3
㉙	残るときは許可証が必要	23.9	(31.4)	55.3	22.4	22.3	44.7
㉚	私語禁止	24.6	(33.6)	58.2	24.8	17.0	41.8
㉛	チャイムで着席、目をとじる	25.0	(36.5)	61.5	23.8	14.7	38.5
㉜	女子のスカート丈は決める	25.6	(36.1)	61.7	22.5	15.8	38.3
㉝	マンガを持ってこない	26.5	(33.9)	60.4	22.7	16.9	39.6
㉞	やむをえないときは異装届	27.1	(30.0)	57.1	17.5	25.4	42.9
㉟	放課後も校内は標準服で	27.2	(27.3)	54.5	20.6	24.9	45.5
㊱	学行行事は標準服で	27.5	(32.5)	60.0	17.1	22.9	40.0
㊲	指定区外でも自転車に乗らない	(31.1)	30.7	61.8	15.4	22.8	38.2
㊳	男子のワイシャツは白のみ	(35.5)	33.9	69.4	15.1	15.5	30.6
㊴	5～30分前に登校	35.6	(36.7)	72.3	13.0	14.7	27.7
㊵	男女とも下着をつける	(39.3)	27.6	66.9	17.2	15.9	33.1
㊶	ワイシャツのすそは入れる	(40.0)	34.8	74.8	13.1	12.1	25.2
㊷	職員室は一礼して	(45.0)	31.9	76.9	12.7	10.4	23.1
㊸	体操服は決められたもの	(46.3)	33.5	79.8	10.6	9.6	20.2
㊹	パーマをかけてはいけない	(60.3)	19.8	80.1	8.8	11.1	19.9
㊺	髪をそめてはいけない	(67.1)	18.7	85.8	5.4	8.8	14.2

つまらないと思うが守るつもりだ

当然のきまりだと思う

(図10) 学校のきまり×学年

→ 学年が上がると批判的に



3. 学校のきまりと学年差

そこでトータルとして、学校のきまりについての生徒たちの反応を学年を追って確かめると、表18のような結果となる。

	1年	3年	
1)当然のきまり だと思 う	}	31項目	} 33項目
		1項目	
学年を追って 減少		1項目	
2)なくすべきだ	}	27項目	} 38項目
		4項目	
学年を追って 増加		7項目	

したがって、学校のきまりは3年にとっては反発を感じさせるものなのであろうが、それだけにこんなきまりはなくすべきだという意見が多くを占めたのは心が成長した結果と考え、そうした生徒の評価を冷静に受けとめるべきなのであろう。

もっとも、3年でもなくすべきだの声が過半数を超したのは、45項目中の8項目にすぎない。

- | | |
|----------------|-----|
| 1) 放課後の外出は標準服で | 69% |
| 2) 絵入りのしたじきは禁止 | 67% |
| 3) 他のクラスへ入らない | 67% |

- | | |
|-------------------|-----|
| 4) 映画館は保護者と行く | 63% |
| 5) 校門の国旗に一礼 | 61% |
| 6) オーバー、マフラーは禁止 | 58% |
| 7) 雨がさは黒か紺のみ | 56% |
| 8) 君が代は気をつけの姿勢で聞く | 53% |
| 9) 廊下は走らず右側通行 | 48% |
| 10) 男子は丸刈り | 47% |
| 11) 掃除中はしゃべらない | 45% |
| 12) 女子は三つ編み | 45% |
| 13) 女子は髪は黒のゴムでしばる | 43% |
| 14) 職員室へは用のある者のみ | 41% |
| 15) 女子のピンどめは黒 | 41% |
| 16) 残るときは許可証が必要 | 41% |

そしてこれらの項目に関しては、生徒たちの言い分がもっとものように思われるので、生徒たちは決して無理な気持ちを持っているのではなく、生徒らしい批判を示していると言えよう。逆に言うならば、仮に学校が前述の1)から8)のようなきまりをかたくなに守るように求めて生徒が反発を示したなら、生徒を一人前の人間として扱おうとしない学校の態度のほうが、むしろ問題とされなければならぬように思う。

(表18) 校則×学年

→ 細かな校則はなくすべきだ

(%)

		当然のきまり				なくすべきだ			
		中1	中2	中3	傾向	中1	中2	中3	傾向
①	絵入りのしたじき禁止	3.9	1.3	0.9	↘	60.0	71.2	66.9	↗
②	校門の国旗に一礼	6.1	2.7	4.0	↗	51.5	62.7	61.2	↗
③	雨がさは黒か紺	6.9	3.0	4.9	↗	46.8	56.9	56.2	↗
④	オーバー、マフラーは禁止	9.5	3.7	6.1	↗	52.8	62.6	58.1	↗
⑤	廊下は右側通行	9.0	5.2	3.2	↘	30.8	34.3	47.7	↗
⑥	男子の丸刈り	10.5	5.0	7.5	↗	39.3	45.8	47.4	↗
⑦	他のクラスに入らない	12.6	5.0	2.6	↘	43.8	54.8	66.5	↗
⑧	職員室には用のある者	11.4	6.7	4.3	↘	30.4	35.0	41.3	↗
⑨	掃除中にしゃべらない	10.0	8.3	3.5	↘	32.9	32.9	45.3	↗
⑩	君が代は姿勢を正しく	11.8	6.7	7.2	↗	39.9	49.7	53.3	↗
⑪	放課後の外出は標準服	12.3	7.1	5.5	↘	49.8	54.0	69.1	↗
⑫	映画は親と	12.4	8.9	5.5	↘	42.5	45.7	62.8	↗
⑬	女子は髪は黒のゴムでしばる	14.4	7.1	9.0	↗	28.1	38.0	42.7	↗
⑭	レインコートなどは黒か紺	15.0	8.1	7.5	↘	29.2	37.0	39.5	↗
⑮	女子のピンどめは黒	15.0	8.1	9.9	↗	28.4	36.1	40.9	↗
⑯	男子の髪は耳にふれない	14.4	10.3	8.4	↘	24.1	24.2	38.7	↗
⑰	男子のくつしたは黒	17.1	10.4	11.8	↗	27.6	34.5	30.7	↗
⑱	女子は三つ編み	18.8	12.1	9.9	↘	27.5	30.5	45.1	↗
⑲	校内放送は直立して聞く	17.6	13.3	9.8	↘	23.8	24.0	31.3	↗
⑳	つめえりのホックをとめる	21.6	10.2	16.5	↗	18.3	24.3	20.8	↗
㉑	男子のベルトは黒	21.3	12.3	13.0	↘	20.0	30.4	26.3	↗
㉒	まっすぐ帰りより道をするな	26.1	17.2	8.1	↘	17.1	18.6	39.5	↗
㉓	指定されたカバン以外は使わない	24.1	18.4	13.6	↘	22.6	27.9	34.8	↗

(%)

		当然のきまり				なくすべきだ			
		中1	中2	中3	傾向	中1	中2	中3	傾向
②4	ドライヤーでウェーブをつけない	25.4	17.9	13.3	↘	22.6	28.4	38.0	↗
②5	カバンをつぶすな	26.2	16.9	17.9	↗	24.4	27.2	35.7	↗
②6	男子のズボンのすそ幅	28.7	15.8	15.4	↘	15.7	22.9	26.4	↗
②7	通学カバンにワッペンをはらない	29.3	18.1	21.7	↗	19.1	21.1	30.2	↗
②8	髪に飾りをつけない	27.0	21.4	15.6	↘	19.7	23.7	32.1	↗
②9	残るときは許可証が必要	30.0	22.9	9.2	↘	19.6	19.9	40.6	↗
③0	私語禁止	26.5	23.5	22.8	↘	18.4	14.4	23.6	↗
③1	チャイムで着席、目をとじる	27.3	24.9	18.3	↘	14.6	12.9	22.7	↗
③2	女子のスカート丈は決める	33.8	21.9	15.6	↘	14.3	14.6	25.7	↗
③3	マンガを持ってこない	30.7	24.2	23.5	↘	16.7	15.8	22.3	↗
③4	放課後も校内は標準服で	32.3	24.3	23.3	↘	23.0	25.0	30.8	↗
③5	やむをえないときは異装届	35.2	23.5	17.7	↘	20.7	26.3	35.7	↗
③6	学校行事は標準服で	30.1	25.9	26.5	↗	22.6	21.5	29.8	↗
③7	指定区外でも自転車に乗らない	36.2	30.2	19.9	↘	21.4	21.9	30.8	↗
③8	男子のワイシャツは白のみ	41.0	35.3	19.9	↘	12.9	13.6	30.9	↗
③9	5～30分前に登校	41.8	32.9	28.0	↘	13.7	13.4	22.8	↗
④0	男女とも下着をつける	44.0	36.9	34.3	↘	12.9	16.7	22.3	↗
④1	ワイシャツのすそは入れる	45.7	37.4	32.7	↘	9.4	12.3	19.9	↗
④2	職員室は一礼して	49.1	44.0	36.3	↘	9.2	9.5	17.3	↗
④3	体操服は決められたもの	46.8	48.8	34.5	↗	9.9	7.5	17.4	↗
④4	パーマをかけてはいけない	63.5	61.9	44.8	↘	10.9	8.5	22.3	↗
④5	髪をそめてはいけない	71.5	66.3	57.4	↘	8.3	7.8	14.2	↗

現代中学生気質を見た思いがする

東京都東久留米市立久留米中学校教諭 長嶋安男

調査票①こんなときどうするか(規範感覚)——〈1〉 大きく規範からはずれると考えることはやらない。あるいは、近づかないのが現代中学生気質のように受け止める。しかし、自分以外の者——たとえ友だちでも——が規範からはずれた場合は、それを止める努力はあまりはらおうとはしないようだ。

〈2〉 友人や他の人たちとの関わりは、浅い。また、深くしたくないようだ。都会的な感覚の持ち主というか、現代中学生は、そんな心情の持ち主のようだ。

〈3〉 では、まったくの傍観者なのだろうか。それほど冷たくはないようだ。非行に走りそうな者がいれば、一応は「止めろ」と注意はする。しかし、体を張ってまではしない、ということである。これは、自分の力の限界を心得ているということなのだろうか。それとも「彼(彼女)は何もしてやらなかった」と、あとで非難されないための予防策が、中学生の身に自然とついてしまっているということだろうか。

〈4〉 中学生から見て善いこと・悪いことと、とくに真剣に考えるほどでもないこと(たとえば、調査項目5)11)12)13)14)16))については、さりと避けて通り、深刻に考えないようにしている様子がかがえる。

〈5〉 私も試みに30項目について○をつけてみたが、中学生が○をつけたうち最高のパーセントを示したものとほぼ重なった。このことから、中学生はおとなと感覚的にはたいして変わらない、浅いしらけた人間関係の中にあると解釈できよう。

調査票②学級会の雰囲気について——ここでも①こんなときどうするかに対してと同様な感想を持つ。強力に自己をだすことは、必ずそれ相応の反応が返ってくることを予想し、あえて自己主張しないことのほうが世渡り上手と、現代中学生は判ってしまっているような気がする。関わらないことはよいことだ、という人生観を持っているのだろうか。

調査票③学級活動について——集団に対する信頼、連帯の大切さなどについては意識が薄い。これが、現代の中学生の特色のように思う。そして現状に対しては、個々人あるいは集団の力でもそれはそう簡単には変わらない、と思っている様子である。ことに調査票④クラス委員についての集計結果と関連しても思うのだが、成功するかどうかははっきりしない全体的改革には、自分から積極的な立場で関わりを持つことはいやのようである。

生徒会の組織に対しては、自分たちの組織という意識は薄く、傍観的である。これは、調査票⑤生徒会についての1～8の調査項目の回答でも明白である。

調査票⑥生徒会の役員について——調査項目は11、いわゆるツッパリの人だけはとも少なそうが62.1%で特徴的だが、現実はどうなのか。実際には、校内が荒れている中学校、あるいは荒れている時期には、この種の生徒が生徒会役員を独占する、または多数を占めていることは案外あるように思う。実際、体験したことでもある。

とすると11の結果は中学生のささやかな願望であると考えたほうが妥当のように思

う。調査項目 1、2、3、4、12ではとても～やや多そうの合計数値がそれぞれ80%を超えているが、現実に出選されてくる生徒会役員諸君をみていると、これは願望でしかないと思う。役員たちは、行動力も創造力もリーダーシップもあるように思えないし、教師（学校）のきびしくなる一方の管理体制の中で、たとえそれらの能力があっても生かせず発揮できず、再度立候補したり、推薦を受けたりする気持ちはなくなっていくのではあるまいか。

調査票⑦学校のきまりについて——この集計結果から今の中学生の“常識人”らしさ、悪く言えば中学生らしさ＝若者らしい考え方のなさがはっきり出ていると見る。

調査項目 1、3、4、5、6、22、24、25、26、32、36、37、40、41、43、45など、およそ異常とも思える学校の管理体制のあり方には反発するが、8. パーマ、9. 染髪、14. ワイシャツは白、15. ワイシャツはズボンの中に、16. 下着着用、20. 体操服の指定などについては、当然という回答をする。

また、30. チャイム着席、31. 授業中の私語を中心とする、28～35前後の回答のあり方は、これまた現代中学生らしいものと受け止める。つまらない束縛を嫌う姿であるが、だからといって改善を学校や教師に要求するより、なくすしていく方向がとられるのではないか。

調査票⑧将来の社会に対する見通し——今の中学生の中でどれだけの者が「日本の将来」について考えたことがあるのか？まず、そこから疑問だ。⑧のような質問には、まずびっくりして、それから少々考えて答えるのではあるまいか。だから、展望などは持ちえず、つい暗くなるということだろう。3と8のような自分たちの身にふりかかっていく内容には答えやすいのではないか。

調査票⑨現代の社会について——調査項目4.世の中にはいろいろな考え方の人がいるに対し、とてもそう思うが56.0%であり、かなりを加えると84.2%に達しているのは印象的だった。それが5、6、7、9でとても～ややそう思うの合計数値81.8%、79.3%、85.0%、82.3%にもつながっていくのだろう。世の中への不信感が対人関係を考えるところにも出ていると見られないか？

調査票⑩将来の自己像について——世の中への不信感、当然世の中全体を改革する方向には向かないのではないか。目立たなくてもいい、なんとか困らずに暮らせばよい、と考えてしまう。「スタートラインに立つ前に、すでに疲れてしまっている、諦めてしまっている中学生像」が出ているように思う。

調査票⑪現在の自己像について——連帯性の稀薄さは、当然方向がそれぞれに異なる生徒を生みやすい。これが⑪の結果ではないか。各調査項目の数値で少しそうの比率が、6を除いてすべて最高を示すのが印象的だ。

多くの中学生の気持ちは、「勉強はふつうにできる、たまには学校をサボりたい、でも、学校は世の中では一番気楽で楽しいところかな。おしゃべり仲間、遊び仲間もあるし……」というようなところなのであろう。

今までの“学校観”は、もっと中学生のそれに近づけないと、これでは中学生も中学校も、なにも解らなくなりそうだと反省している。